

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	国語・現代文B・3単位
使用教科書	精選現代文B(東京書籍)			副教材	常用漢字アルファ(桐原書店) 常用国語便覧(浜島書店)

1 科目の目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態	一斉授業
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法</p> <p>あらかじめ教材を読み、漢字の読み・書きを確認し、新出語句の意味を調べておく。 授業後は、教科書・ノートをよく見直し、内容を再確認し、疑問点を明らかにする。</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>辞書は常に座右に置く。文章を正確に読み取るよう努める。板書を写すだけでなく、自主的にメモをとりノートをまとめる。自身の頭をしっかりと働かせて考える。教授者や他の生徒の意見などにもきちんと耳を傾ける。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <p>辞書は座右に置く。小テストに向けての学習や週間課題は、予定表にしたがって早めに取り組む。 分かったことと分からないことをはっきりと区別できるまで取り組むこと。</p>
(3) 担当者からのアドバイス	<p>本文とじっくり向き合い、自分の意見・感想を持つことから始め、考えをまとめることを丁寧に繰り返すことが「現代文」の実力を高める近道です。さまざまな文章を読んで考える力を熟成させてゆこう。</p>

3 学習計画

考査	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)	時間	評価方法
前期	I 期中間 評論1 現実と仮想 茂木 健一郎 言語と記号 丸山 圭三郎 言語活動2 論理的な文章を読んで意見文を書く 定期考査	○筆者の考える「現実」について、「仮想」と対比させてまとめる。 ○言語や記号に対する筆者の考え方を具体例に即して正確に理解する。 ○論理的な文章を読んで、疑問点を検証し、自分の意見を文章にまとめる。	7 7 3 1	定期考査 授業の取り組み 提出物
	I 期末 小説1 赤い繭 安部 公房 I 部 評論5 環境問題と科学 村上 陽一郎 随想 猫のしあわせ 多和田 葉子 定期考査	○心象風景を描いた小説の読み取りを通じて洞察力を養う。 ○「家」と「道」との関係について考える。 ○環境問題に対し科学が持つべき意識について、筆者の考えを整理する。 ○筆者が考える「遊び」と「しあわせ」との関係について、的確に読み取る。	7 8 3 1	定期考査 授業の取り組み 提出物
	II 期中間 評論2 他者の声 実在の声 野矢 茂樹 鏡の中の現代社会 見田 宗介 言語活動3 メディアの特質を生かして表現する。 定期考査	○筆者の考える「他者性の問題」「実在性の問題」を正確に読み取る。 ○さまざまな異世界と現代社会との違いに着目し、筆者の主張を本文に即して理解する。 ○さまざまなメディアの特色やそれぞれの効果について理解を深める。	8 8 4 1	定期考査 授業の取り組み 提出物
後期	II 期末 評論3 垂直のファッション、水平のファッション 鷺田 清一 評論4 原始社会像の真実 新納 泉 評論5 抗争する人間 今村 仁司 定期考査	○キーセンテンスに注目し、本文を的確に読み取る。 ○「《垂直》の装い」と「《水平》の装い」について、それぞれ例を挙げ、どのようなものか説明する。 ○筆者の捉える原始から現代への社会の変遷についての的確に読み取る。 ○社会的存在としての人間のありかたについての筆者の考えを理解する。	7 7 8 1	定期考査 授業の取り組み 提出物
	年次末 小説2 舞姫 森 鷗外 言語活動4 課題を設定して調べた成果をまとめる。	○文語文で書かれた小説を読み、描かれた内容を的確に理解して味わう。 ○課題に応じてさまざまな方法で情報を収集し、考察したことをわかりやすく工夫して報告書にまとめる。	15 14	授業の取り組み 提出物

4 観点別評価

110時間(48分授業)

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、以下の割合で総合的に評価する。
定期考査…80%程度 その他(課題テスト・漢字などの小テスト、提出物、授業態度など)…20%程度

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	国語・③精選古典・3単位
使用準教科書	精選古典B(大修館書店) 精選国語総合(三省堂)			副教材	新しい古典文法(桐原書店) 新明説漢文(尚文出版)

1 科目の目標

古文・漢文を読む能力を養い、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習:教科書の音読、本文の書写、分からない単語や文法事項の確認、現代語訳
復習:ノートの整理、内容理解の確認、文法事項のまとめ

② 授業における学習方法

予習段階での疑問点を解決するよう、積極的に質問をして理解に努める。
現代語訳の丸暗記ではなく、「なぜそのような訳になるのか」が説明できるようにする。
作品の背景や作者の経歴なども確認し、より深く作品に親しむ。

③ 家庭学習のポイント等

授業前に不明な箇所を明らかにしておくことで、重要事項を容易に理解できるようになる。
古文では助動詞と敬語、漢文では句法について特に確認しておく。
文章の内容が思い描けるようになるまで音読し、優れた表現は暗唱できるようにする。

(3) 担当者からのアドバイス

授業の予習を十分に行うこと。副教材や辞書は必ず机上に準備し、いつでも使える状況にしておこう。しかし、それらに安易に頼らず、まずは自分で考える習慣を身に付けたい。また、読解の際の基本事項を確実に身につけ、作品世界に大いに興味・関心を持って取り組もう。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 古文:物語「大鏡」 鶯宿梅 漢文:逸話と寓話「不死之薬」「売油翁」	古文:語句や文法に注意し、話の展開を理解する。 漢文:疑問の句形に注意しながら、話の面白さを味わう。
	I 期末 古文:日記「蜻蛉日記」 町の小路の女 漢文:孟子「何必曰利」	古文:文章の展開に即して、作者の心情を読み取る。 漢文:さまざまな句形に注意しながら読み進め、孟子の論理展開の特徴を把握する。
	II 期中間 古文:物語「徒然草」 ある人、弓射ることを習ふに(『国語総合』教科書も使用) 漢文:史伝「荆軻」(一)	古文:本文の構成を把握し、内容や話の展開を理解する。 漢文:文脈を正確にたどり、大意を把握する力を養う。漢文独特の口調やリズムに馴染めるように何度も音読する。
後期	II 期末 漢文:史伝「荆軻」(二) 古文:物語「源氏物語」 御法	漢文:登場人物の描かれ方を考察し、その人柄を理解する。 基本的な句法・主要な助字を理解しながら読み進める。 古文:重要語句や指し示す内容を理解し、正確な読解を行う。 和歌内容を把握して、詠んだ人物の心情を考える。
	(学年末) 古文:評論「無名抄」 おもて歌 漢文:小説「復活」(『国語総合』教科書も使用)	古文:話の展開を理解し、和歌や歌論への関心を高める。 漢文:句法や再読文字、重要な基本的語彙を押さえながら読み進め、小説の豊かさを知り、漢文に親しむ態度を養う。

4 観点別評価

110時間(48分授業)

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
古典を読解する能力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで、思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化および言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、課題テスト、小テスト、課題等の提出状況、授業への参加の仕方などを総合的に見て判断する。

学年	3学年	系列	人文 科学	教科・科目・単位数	②・⑦現代文A・2単位・全系列
使用教科書	教科書名(出版社名) 改訂版 現代文A(第一学習社)			副教材	教材名(出版社名) 「LT現代文2」(浜島書店)

1 科目の目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態 一斉授業。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法
あらかじめ教材を読み、漢字の読み・書きを確認し、新出語句の意味を調べておく。授業後は、教科書・ノートをよく見直し、内容を再確認し、疑問点を明らかにする。

② 授業における学習方法
辞書は常に座右に。書いてあることを正確に読み取るようつとめる。板書だけでなく、自主的にノートをよくまとめる。自身の頭をしっかりと働かせて考える。教授者や他の生徒の意見などにもきちんと耳を傾ける。

③ 家庭学習のポイント等
辞書は座右に。小テストなどの準備は、予定表にしたがって早めに取り組む。分かったことと分からないことが、それぞれはつきりさせられるところまで取り組むこと。

(3) 担当者からのアドバイス
他の人の考えを鵜呑みにしたり、答えを丸写しにしたりでは絶対に力がつかないのが「現代文」という教科。新聞・書籍に普段から親しみ、社会の動きに関心を深め、考える力を熟成させてゆこう。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 新しい発見 新しい地球観 毛利衛 小説を読む デューク 江國香織	・作り手の意図が反映された作品と、作品の表現から鑑賞者が受ける印象、それらが社会に与える影響について考える契機とする。 ・一人称で書かれた小説の特徴をつかみ、その特徴を生かした物語の構造について理解を深める。
	I 期末 言語と文化 数え方で磨く日本語 飯田朝子 小説を読む 相棒 内海隆一郎	・筆者の考えを参考にして、自らの言語生活において意識して数え方を使っているかを考える契機とする。 ・登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取り、読書への関心を高め、自分に引きつけながら読む態度を養う。
	II 期中間 人間と文化 コミュニケーションの文化 平田オリザ 小説を読む 鼻 芥川龍之介 人生と風景 出島のチューリップ 吉田直哉	・国や民族によってコミュニケーションの文化に違いが生じることについて、理解を深める。 ・小説世界を自己のものの見方や考え方に引きつけて考える。 ・出来事と風景の関連を読み取り、その心情を理解する。
後期	II 期末 社会と文化 大量生産の眩暈 原 研哉 小説を読む いろはに、こんぺいとう 原田マハ	・筆者の考える「量」というものを捉え、「ものの生産に伴う悲しみ」を理解し、現代社会への問題意識を喚起する。 ・現代を題材とした小説を読むことで、日常生活に潜む問題点を身近に捉え、生きることの意味を考察する。
	年次末 人間と社会 経験の教えについて 森本哲郎 支え合うことの意味 鷺田清一	・生きていくうえで経験に学ぶことの難しさと重要性を読み取ることにより、問題意識を養う。 ・近代的な社会とは、どのような社会で、どのような問題点があるのかを読み取る。

4 観点別評価

73時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで磨き、言語文化に対して高い関心を持って過ごしている。国語を尊重して、自らの国語力の向上を図ろうとしている。	場や目的に応じて自分の考えをまとめ、効果的に話したり書いたりすることが出来る。また、相手の話を的確に理解し、良好なコミュニケーション取ろうとしている。	相手や目的、意図に応じて適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査…8割程度 その他(課題テスト・漢字などの小テスト、提出物、授業態度など)…2割程度以上の割合で総合的に評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	国語・②・⑨古典A・2単位
使用準教科書	高等学校古典A(第一学習社)			副教材	新しい古典文法(桐原書店) 新明説漢文(尚文出版)

1 科目の目標

古文・漢文を読む能力を養い、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習:教科書音読、本文の書写、分からない単語や文法事項の確認、現代語訳
復習:ノートの整理、内容理解の確認、文法事項のまとめ

② 授業における学習方法

予習段階での疑問点を解決するよう、必要であれば質問をし、理解に努める。
現代語訳の丸暗記ではなく、「なぜそのような訳になるのか」が説明できるようにする。
作品の背景や作者の経歴なども確認し、より深く作品に親しむ。

③ 家庭学習のポイント等

不明な箇所を明らかにし、授業において解決できるようまとめておく。
古文では助動詞と敬語、漢文では句法について特に確認する。
文章の内容が思い描けるようになるまで音読し、優れた表現は暗唱できるようにする。

(3) 担当者からのアドバイス

授業の予習を十分に行うこと。副教材や辞書は必ず机の上に準備し、いつでも使える状況にしておこう。しかし、それらに安易に頼らず、まずは既習の知識をもとに考えてほしい。また、読解の基本的な事項も確実に身につけ、作品世界に大いに興味・関心を持って取り組もう。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 古文:大鏡 「菅原道真の左遷」 漢文:搜神記 「織女」	古文:登場人物について整理し、心情の変化を理解する。 漢文:段落ごとの内容を押さえ、話の展開を正確に理解する。
	I 期末 古文:大和物語 「いはで思ふ」 漢文:韓愈「答陳商書」	古文:敬語に注意して正確な現代語訳ができるようにする。また、和漢の修辞法について理解する。 漢文:さまざまな句形に注意しながら、話の面白さを味わう。
	II 期中間 古文:平家物語 「横笛」 漢文:蒙求 「壺中天」	古文:登場人物の行動や発言から人物設定を明らかにさせ、人物の心理の対比を考察する。 漢文:漢文の長文を、話の筋を逐いながら内容を理解する。
後期	II 期末 古文:源氏物語 「物の怪の出現」 漢文:幽明録 「買粉兒」	古文:語句の意味を確認しながら話の展開を読み取る。 作者の推量・判断を差し挟んだ構成を理解する。 漢文:繰り返し読んで、文意を正確に理解することにより、登場人物の心情の変化を読み取る。
	(学年末) 古文:俊頼髓脳 漢文:陶宗儀「飛雲度」	古文:歌論の表現に接することを通じて、当時の人々の歌についての考え方を理解する。 漢文:語句・句形に注意しながら、登場人物の心情を理解する。

4 観点別評価

73時間(48分授業)

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
古典を読解する能力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで、思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化および言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、小テスト、課題等の提出状況、授業への参加の仕方などを総合的に見て判断する。

学年	3学年	系列	人文学	教科・科目・単位数	地理歴史・④世界史B・3単位
使用教科書	『詳説世界史B』（山川出版社）			副教材	第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』 啓隆社『世界史重要語句Check List 2017』

1 科目の目標

世界歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。文化の多様性と現代世界を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 学習について

(1) 授業形態

教室での講義

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

[予習]教科書をよく読み、該当箇所の内容を大まかにつかむ。

[復習]ノート・資料集を確認し、問題集を解き授業内容を定着させる。

② 授業における学習方法

板書事項をノートにきちんと書き写す。さらに、重要ポイント・イラスト・略地図などもメモしておく。

資料集を十分に活用し、年表や地図などをチェックしておく。

③ 家庭学習のポイント等

教科書・資料集を見直し、問題集を解き、理解度を確認する。

歴史小説や映画なども参考になる。夏休みや冬休みを利用し、チャレンジしてみよう。

(3) 担当者からのアドバイス

普段から新聞やニュースに関心を持ち、世界の動きに注目しよう。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 第11章 欧米における近代国民国家の発展	ウィーン体制下での国民主義の動きと米の南北戦争について学ぶ。
	I 期末 第12章 アジア諸地域の動揺	欧米列強による植民地獲得競争と、それに対する民族の対応について学ぶ。
	II 期中間 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 第14章 二つの世界大戦	欧米列強による帝国主義と、それに対する民族運動について学ぶ。 第一次大戦から第二次大戦にかけて、世界の動きを理解する。
後期	II 期末 第15章 冷戦と第三世界の独立	冷戦の背景について、第二次世界大戦時の国際関係とからめ、考察する。
	年次末 第16章 現在の世界	現代の国際問題、民族問題などについて、その解決を図る国際協調の意義と課題を考える。

4 観点別評価

計110時間（48分授業）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとしている。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する書資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查の成績・小テスト・課題プリントの成績などを合算する。授業態度はもとより、ノート提出・レポートその他の提出物など、すべて評価の対象となる。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	地理歴史・⑦⑧日本史B・4単位
使用教科書	詳説日本史B(山川出版社)			副教材	最新日本史図表(第一学習社) 要点整理ゼミナール日本史(浜島書店)

1 科目の目標

近世～現代の日本の歴史について、政治・社会・産業・文化などさまざまな視点から学び、合わせて世界との関わりの中から「世界の中での日本の在り方」を考える視点を身につける。また、同時に大学入試に対応できる実力を養う。

2 学習について

(1) 授業形態

教室での講義

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習：教科書をよく読み、該当部分の政治・社会等の流れを理解する。

復習：ノート・資料集を読んで要点を押さえ、問題集等で理解度を確認する。

② 授業における学習方法

教科書・資料集で該当箇所を確認しながら説明をよく聞く。板書事項を確実にノートにとり、必要に応じてメモを加える。

③ 家庭学習のポイント等

さまざまなテーマにおける物事や人の考え方の流れを単純な線として捉えず、それぞれを横断的に結びつけながら理解する。

(3) 担当者からのアドバイス

近代史はとくに覚えなければならぬ事柄が多く理解が難しいが、世界の動向も意識しながら社会全体の変遷を理解しようとするとい。

3 学習計画

		単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間	第7章 幕藩体制の展開	日本近世社会の確立期をとおして、台頭する庶民層と新たな文化の形成および産業・社会の発達などについて学ぶ。
		第8章 幕藩体制の動揺	近世後期の政治改革や円熟した庶民文化について学び、あわせて幕藩体制の動揺と社会の変容について理解する。
	I 期期末	第9章 近代国家の成立	日本近代国家の成立過程をとおして、立憲国家成立までの流れや近代産業・文化の発展について学ぶ。また日清・日露戦争をとおして、当該期の国際情勢を考察する。
		II 期中間	第10章 二つの世界大戦とアジア
後期	II 期期末	第11章 占領下の日本	大戦終結後の日本と世界について学び、敗戦後の日本社会の変革・復興、国際情勢の変化とあわせて、現代の世界と日本が抱える諸問題について理解する。
		第12章 高度成長の時代	
		第13章 激動する世界と日本	

4 観点別評価

計146時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取った図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連づけて総合的に理解し、その知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査の成績に加え、適宜課される課題等の提出物及び授業態度等を総合的に判断する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	地理歴史・⑦⑧地理B・4単位
使用教科書	新詳地理B(帝国書院)			副教材	新詳高等地図(帝国書院) 新詳地理資料COMPLETE(帝国書院) センター地理(啓隆社)

1 科目の目標

1. 現代世界の地理的認識を深める。	2. 地理的な見方・考え方を養う。
3. 地図と地理情報を活用する技能を身に付ける。	4. 応用力を養成する。(センター試験レベル)

2 学習について

(1) 授業形態	問題演習および解説。自然災害と関連させたグループワーク。
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法</p> <p>問題を解き、分からなかったところを地図帳・資料集を用い調べてくる。</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>問題の解答と解説、および補足。 地図、図表、写真を利用した考察。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <p>地図帳で地名を、資料集で事象を確認をする。</p>
(3) 担当者からのアドバイス	常に傍らに地図帳や資料集を置き、億劫がらずに地名や地理的事象を確認しながら予習・復習を続けること。この地道な作業の繰り返し以外に能力をアップさせる方法はありません。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 1. 自然環境	(1)地形 (2)気候
	I 期末 2. 資源と産業	(1)農林水産業 (2)鉱工業 (3)商業・サービス業
	II 期中間 3. 人口、村落・都市	(1)人口 (2)村落と都市
後期	II 期末 4. 生活文化、民族・宗教	(1)生活文化 (2)民族と宗教 (3)民族・領土問題
	年次末 5. 世界の諸地域	(1)東アジア (2)東南・南アジア (3)西アジア・中央アジア (4)アフリカ (5)ヨーロッパ (6)南・北アメリカ (7)オセアニア

4 観点別評価

計 146 時間 (48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像などの地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けようとしている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、以下を参考に総合的に評価する。
1. 定期考査(年4回) 2. 提出物(白地図・レポート) 3. 授業態度(出欠状況・意欲・興味関心)

学年	3学年	系列	人文・自然	教科・科目・単位数	公民・④現代社会セミナー・3単位
使用準教科書	現代社会（数研出版） 明解 世界史A（帝国書院）		副教材	『最新図説 現社』（浜島書店） 『新課程4ステージ演習ノート現代社会』（数研出版）	

1 科目の目標

現代の諸課題を歴史的観点から考察させ、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚を養うとともに、現代社会の基本的な問題について公正に判断し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

教室での講義

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

〔予習〕 次の授業分野の教科書・資料集に目を通し、概略や疑問点をつかんでおく。

〔復習〕 その日学んだ授業プリント・ノート・教科書・資料集を見直し整理し、疑問点が解消されたか確認する。

② 授業における学習方法

予習時の疑問点に注意しながら集中して授業を聴き、板書事項と講義内容のポイントや覚えておくべきと思ったことなどをプリントやノートに書き留める。授業終了後、疑問点があればすぐに質問する。

③ 家庭学習のポイント等

ただ漠然と教科書・資料集・プリントを読むだけでは頭に残りません。常に問題意識をもって自分自身の頭で考えながら読むようにしてください。そのためには問題集をやりながら教科書・資料集等を読むのもよいでしょう。

(3) 担当者からのアドバイス

上記の問題意識をもつようになるためには、テレビや新聞のニュースを、毎日1回は必ず見ることを習慣にするようにしてください。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
中 I 間 期	政治参加と民主政治の課題 時事問題(選挙)	○政党・選挙 ○世論形成と政治参加
I 期 期 末	国際政治の動向と日本の果たすべき役割 帝国主義とアジアの民族運動 時事問題(国際政治)	○国家主権と国際法 ○国際連合の役割 ○今日の国際社会 ○核兵器の廃絶と国際平和 ○国境と領土問題 ○地域紛争と民族問題 ○外交政策と日本の役割
II 期 中 間	現代の経済社会と経済活動のあり方 時事問題(経済)	○経済社会と経済体制 ○現代の企業 ○市場経済の仕組み ○経済成長と景気変動 ○政府の経済的役割 ○金融機関 ○戦後の日本経済 ○産業構造の変化 ○雇用と労働 ○社会保障
期 II 末 期	国際経済の動向と日本の果たすべき役割 時事問題(国際経済)	○国際経済の仕組み ○国際経済の動向 ○発展途上国の経済 国際協調と日本の役割
末 年 次	青年期と自己の形成	○豊かな人生を求めて ○日本の伝統的なものの考え方 ○西洋の自然観と人間観 ○私たちの課題

4 観点別評価

計110時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期テスト・授業への取り組み・課題の報告や提出物の内容 などから総合的に評価します。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	公民・④政治・経済・3単位
使用教科書	政治・経済(数研出版)		副教材	『最新政治・経済資料集新版』(第一学習社) 『新政治・経済ノート』(啓隆社)	

1 科目の目標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

教室での講義

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

〔予習〕 次の授業分野の教科書・資料集に目を通し、概略や疑問点をつかんでおく。

〔復習〕 その日学んだ部分の授業プリント・ノート・教科書・資料集を見直し整理し、疑問点が解消されたか確認する。

② 授業における学習方法

予習時の疑問点に注意しながら集中して授業を聴き、板書事項と講義内容のポイントや覚えておくべきと思ったことなどをプリントやノートに書き留める。授業終了後、疑問点があればすぐに質問する。

③ 家庭学習のポイント等

ただ漠然と教科書・資料集・プリントを読むだけではすぐに眠くなるだけです。常に問題意識をもって自分の頭で考えて読むのであれば政経の内容は頭に入ってきます。問題集をやりながら教科書・資料集を読むのもお勧めです。

(3) 担当者から

上記の問題意識を持つために、新聞やTVで報道されたニュースの要約を發表してもらいます。

3 学習計画

		単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	中 I 間期	○地方自治のしくみと住民生活 ○政治参加と民主政治の課題	地方自治の本旨や地方自治のシステム、直接民主制について理解する。 現代政治における政党の役割や選挙制度について理解する。
	期 I 末期	○資本主義経済の発展 ○経済活動の意義と経済体制	経済の基本的な概念や経済理論、現代経済の特質を学ぶ。 三つの経済主体、市場経済、企業の種類としくみなどについて学ぶ。
	中 II 間期	○現代経済のしくみ ○日本経済と福祉の向上	国民所得、景気変動、財政・金融政策の基本的なしくみについて学ぶ。 日本経済の歩み、様々な問題点、労働法制と労働問題、社会保障制度とその課題について学ぶ。
後期	期 II 末期	○国際経済の動向	貿易と為替相場のしくみや国際収支の基本的な構成を学ぶ。 国際通貨制度の成立と変容、国際経済機関の役割についても学ぶ。
	年次末	○国際政治の動向 ○国際社会の課題と日本の役割	戦後の国際政治の動き、国際社会と国際法について学ぶ。 国際連合の成立と機能、日本の安全保障政策について学ぶ。 領土問題、人種問題、民族問題、難民問題など国際紛争を学ぶ。 核兵器の開発と軍拡、核廃絶への努力、日本の国際的役割を学ぶ。

4 観点別評価

計110時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
政治経済の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めている。	政治経済の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断できる。	政治経済の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	政治経済の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期テスト・授業への取り組み・課題の報告や提出物の内容 などから総合的に評価します。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	公民・⑦政治・経済・2単位
使用教科書	政治・経済(数研出版)			副教材	『最新政治・経済資料集新版』(第一学習社) 『新政治・経済ノート』(啓隆社)

1 科目の目標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

教室での講義

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

〔予習〕 次の授業分野の教科書・資料集に目を通し、概略や疑問点をつかんでおく。

〔復習〕 その日学んだ部分の授業プリント・ノート・教科書・資料集を見直し整理し、疑問点が解消されたか確認する。

② 授業における学習方法

予習時の疑問点に注意しながら集中して授業を聴き、板書事項と講義内容のポイントや覚えておくべきと思ったことなどをプリントやノートに書き留める。授業終了後、疑問点があればすぐに質問する。

③ 家庭学習のポイント等

ただ漠然と教科書・資料集・プリントを読むだけではすぐに眠くなるだけです。常に問題意識をもって自分の頭で考えて読むのでなければ政経の内容は頭に入ってきてきません。問題集をやりながら教科書・資料集を読むのもお勧めです。

(3) 担当者から

上記の問題意識を持つために、新聞やTVで報道されたニュースの要約を發表してもらいます。

3 学習計画

		単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	中 I 間期	○地方自治のしくみと住民生活 ○政治参加と民主政治の課題	地方自治の本旨や地方自治のシステム、直接民主制について理解する。 現代政治における政党の役割や選挙制度について理解する。
	期 I 末期	○資本主義経済の発展 ○経済活動の意義と経済体制	経済の基本的な概念や経済理論、現代経済の特質を学ぶ。 三つの経済主体、市場経済、企業の種類としくみなどについて学ぶ。
	中 II 間期	○現代経済のしくみ ○日本経済と福祉の向上	国民所得、景気変動、財政・金融政策の基本的なしくみについて学ぶ。 日本経済の歩み、様々な問題点、労働法制と労働問題、社会保障制度とその課題について学ぶ。
後期	期 II 末期	○国際経済の動向	貿易と為替相場のしくみや国際収支の基本的な構成を学ぶ。 国際通貨制度の成立と変容、国際経済機関の役割についても学ぶ。
	年次末	○国際政治の動向 ○国際社会の課題と日本の役割	戦後の国際政治の動き、国際社会と国際法について学ぶ。 国際連合の成立と機能、日本の安全保障政策について学ぶ。 領土問題、人種問題、民族問題、難民問題など国際紛争を学ぶ。 核兵器の開発と軍拡、核廃絶への努力、日本の国際的役割を学ぶ。

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
政治経済の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めている。	政治経済の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断できる。	政治経済の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	政治経済の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期テスト・授業への取り組み・課題の報告や提出物の内容 などから総合的に評価します。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	公民・⑤倫理・3単位
使用教科書	高校倫理(実教出版)			副教材	テオーリア最新倫理資料集(第一学習社) 高校倫理 演習ノート(実教出版)

1 科目の目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

概ね講義による

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

〔予習〕 次の授業分野の教科書・資料集に目を通し、概略や疑問点をつかんでおく。

〔復習〕 その日学んだ授業プリント・ノート・教科書・資料集を見直し整理し、疑問点が解消されたか確認する。

② 授業における学習方法

予習時の疑問点に注意しながら集中して授業を聴き、板書事項と講義内容のポイントや覚えておくべきと思ったことなどをプリントやノートに書き留める。授業終了後、疑問点があればすぐに質問する。

③ 家庭学習のポイント等

ただ漠然と教科書・資料集・プリントを読むだけでは頭に残りません。常に問題意識をもって自分自身の頭で考えながら読むようにしてください。そのためには問題集をやりながら教科書・資料集等を読むのもよいでしょう。

(3) 担当者からのアドバイス

授業は固定された知識を伝達する場ではなく、教室で知を生成していく場です。興味を持ったらどんどん質問し追究していきましょう。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
中 I 間期	1. 1 青年期の課題と自己形成	○人間とは何か ○青年期とは何か ○自立への課題 ○自己形成への課題
期 I 末期	1. 2 人間としての自覚	○ギリシア思想 ○キリスト教 ○イスラム教 ○仏教 ○中国思想 ○芸術と人生
中 II 間期	1. 3 日本人としての自覚	○古代日本人の思想 ○日本の仏教思想 ○近世日本の思想 ○西洋思想の受容と展開
期 II 末期	2. 1 現代に生きる人間の倫理	○人間の尊厳 ○科学・技術と人間 ○民主社会と自由 ○社会と個人 ○人間への新たな問い
末年次	2. 2 現代の諸課題と倫理	○生命倫理 ○環境倫理 ○家族の課題 ○地域社会の課題 ○高度情報化社会の課題 ○文化と宗教の課題

4 観点別評価

計110時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
倫理の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、倫理的問題を総合的に考えようとする態度とよりよい社会の実現に向けて倫理的に思考する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	倫理の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての倫理的在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	倫理の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	倫理の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查や授業への取り組み等で評価します。

学年	3学年	系列	人文科学	教科・科目・単位数	数学・②数学総合β・4単位
使用準教科書	新編数学Ⅰ・新編数学A(数研出版) 新編数学Ⅱ・新編数学B(数研出版)		副教材	イニシャルノート数学Ⅰ・A(数研出版) イニシャルノート数学Ⅱ・B(数研出版)	

1 科目の目標

数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学Bの基礎的な知識の習得と技術の習得をさらに深め、複数の科目を総合した課題について多面的・発展的に考えることを通して、事象を数学的に考察する能力やそれらを活用する態度を養う。

2 学習について

(1) 授業形態

各々のレベル、あるいは進路を考慮した、3展開による授業。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習では1,2年次に使用した教科書の例題、練習問題等により基本事項を整理し、副教材の演習問題を解くことで自分の弱点を明確にしておく。また復習では、類題にあたることで学習した内容を確実なものとする。

② 授業における学習方法

それぞれの弱点のみならず、教師の解答・解説により、問題の捉え方・解法のバリエーションを広げる視点をもつ。疑問をもった事項については質問するなどし、積極的な態度で望む。

③ 家庭学習のポイント等

正答を得られたかどうかで一喜一憂するのではなく、解答までの過程が論理的であるか心掛ける。受験科目であることを念頭に置き、簡潔明瞭な答案作成を意識する。

(3) 担当者からのアドバイス

数学は、基本事項を積み重ねることで応用的な内容に対応できる力を養うことができる。そのため、結果がすぐに現れないことも多く、途中で諦める者も多々見られるが、それらの一つひとつ確実に身につけることが、成功への近道である。

3 学習計画

	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	数と式	・文字を含む式の計算 ・平方根の定義や性質、分母の有理化 ・方程式 ・不等式 ・判別式
	2次関数	・平方完成 ・グラフと最大最小に関する問題 ・二次不等式
	図形と計量	・三角比の基本 ・正弦定理と余弦定理 ・面積
	データの分析	・箱ひげ図・分散等を用いてデータの散らばりを調べる。 ・2つのデータの相関を調べる。
	場合の数と確率	・集合 ・順列、組合せを用いた問題 ・確率 ・必要条件と十分条件 ・命題
	図形の性質	・三角形の外心、内心 ・円周角の定理 ・接線 ・方べきの定理
後期	式と証明	・式と証明
	複素数と方程式	・複素数 ・高次方程式
	図形と方程式	・点と直線 ・円の方程式 ・軌跡と領域
	三角関数	・角の拡張 ・三角関数 ・加法定理
	指数関数と対数関数	・指数の拡張 ・指数関数とそのグラフ ・対数 ・対数関数とそのグラフ
	微分法と積分法	・微分係数と導関数 ・接線、関数の増減 ・積分
	数列	・等差、等比、階差数列に関する問題 ・漸化式
	ベクトル	・ベクトルの定義や性質 ・位置ベクトル ・内積 ・ベクトル方程式

4 観点別評価

計146時間(48分授業)

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
いろいろな式や関数、図形と計量、数列、ベクトル及び微分・積分の考え方に関心をもつとともに数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式や関数、図形と計量、数列、ベクトル及び微分・積分における数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式や関数、図形と計量、数列、ベクトル及び微分・積分において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式や関数、図形と計量、数列、ベクトル及び微分・積分における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

以上の観点をふまえ、定期テスト・課題テスト・課題の提出、小テスト、授業態度等を考慮して評価します。

学年	3学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	数学・③④数学Ⅲ・6単位
使用準教科書	新編数学Ⅲ(数研出版)			副教材	3TRIAL 数学Ⅲ(数研出版)

1 科目の目標

極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

基礎・基本の定着を図るため、随時小テストを実施し、既習事項を復習する。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

【予習】教科書から、何を学ぶか、内容をおおまかにつかむ。

【復習】学んだ内容と計算力を、問題を解くことにより確実にする。

② 授業における学習方法

予習でつかんだ内容の確認とそれを具体的に実現する計算力を学ぶ。

③ 家庭学習のポイント等

副教材を積極的に活用し、類題、応用問題を通して、基本事項の大切さを理解する。

(3) 担当者からのアドバイス

その日に学んだことは、その日のうちに確実に理解する。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	複素数平面 式と曲線	複素数平面、極形式、ド・モアブルの定理を理解する。 2次曲線を理解し、曲線の媒介変数表示・極方程式表示を理解する。
	関数 極限	分数関数、無理関数、逆関数、合成関数を理解する。 数列、関数の極限、関数の連続性を理解する。
	微分法	積・商・合成関数の微分法さらにいろいろな関数の導関数を理解する。
後期	微分法の応用	接線、関数の増減・極大極小・凹凸・最大最小を理解し、方程式・不等式へ応用する。
	積分法とその応用	置換積分法、部分積分法を理解する。 いろいろな関数の不定積分、定積分を計算する。 図形の面積、体積を求める。

4 観点別評価

計219時間(48分授業)

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
極限、微分法、積分法及び複素数平面、式と曲線に関心をもつとともに数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、極限、微分法、積分法及び複素数平面、式と曲線における数学的な見方や考え方を身に付けている。	極限、微分法、積分法及び複素数平面、式と曲線において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	極限、微分法、積分法及び複素数平面、式と曲線における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

以上の観点をふまえ、定期テスト・課題の提出、小テスト、授業態度等を考慮して評価します。

学年	3学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	数学・③数学IAセミナー・3単位
使用準教科書	新編数学 I (数研出版) 新編数学A(数研出版)		副教材	イニシャルノート数学 I・A(数研出版)	

1 科目の目標

- ・科目を超えた各単元のつながりに重点を置き、系統的な理解を深める。
- ・形式的、表面的な理解にとどまらず、数学を活用する場面や探究する場面を設定することにより、数学的な見方や考え方のよさを味わわせ、問題や課題の本質的な理解を深める。

2 学習について

(1) 授業形態	一斉授業
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法</p> <p>(予習) テキストの例題、練習問題をあらかじめ解いておき、わからない問題、わからない箇所をチェックしておく。 (復習) わからなかった問題を自分の力で解く。</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>授業担当者の解説を聞き、同様にして自分でも問題を解いてみる。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストのみを学習するのではなく、必要に応じて1年次の教科書や問題集で復習する。または、予習する。 <p>(3) 担当者からのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説を聞いて(見て)わかったつもりになるのではなく、自分の手を動かして問題を必ず解く。

3 学習計画

	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	数と式, 方程式と不等式 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 数学 I Aのまとめ 数学 I Aの発展的課題探究	基本的計算力の定着をはかる。 2次関数の基本事項を用いて様々な問題が解けるようにする。 正弦定理、余弦定理を用いた問題を解く。 箱ひげ図・分散等を用いてデータの散らばりを調べる。 2つのデータの相関を調べる。 順序よく数え上げられるようにする。確率の基本を理解する。 図形に成り立つ様々な公式を使えるようにする。 整数の性質について理解を深め、活用できるようにする。 各公式を正しく使えるようにする。
後期	↓	確実な計算力と判断力をつける。 様々な問題に取り組み、いろいろな解法を理解する。 いろいろな解法パターンを身につける。

4 観点別評価

計110時間(48分授業)

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数と式、図形と計量、二次関数及び場合の数と確率、図形の性質の考え方に関心をもつとともに数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、図形と計量、二次関数及び場合の数と確率、図形の性質における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、図形と計量、二次関数及び場合の数と確率、図形の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式、図形と計量、二次関数及び場合の数と確率、図形の性質における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期テスト・課題テスト・課題の提出、小テスト、授業態度等を考慮して評価します。

学年	3学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	数学・④数学総合α・3単位
使用準教科書	新編数学Ⅱ・新編数学B(数研出版)			副教材	イニシャルノート数学Ⅱ・B(数研出版)

1 科目の目標

- ・科目を超えた各単元のつながりに重点を置き、系統的な理解を深める。
- ・形式的、表面的な理解にとどまらず、数学を活用する場面や探究する場面を設定することにより、数学的な見方や考え方のよさを味わわせ、問題や課題の本質的な理解を深める。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

- (予習) テキストの例題、練習問題をあらかじめ解いておき、わからない問題、わからない箇所をチェックしておく。
- (復習) わからなかった問題を自分の力で解く。

② 授業における学習方法

授業担当者の解説を聞き、同様にして自分でも問題を解いてみる。

③ 家庭学習のポイント等

- ・テキストのみを学習するのではなく、必要に応じて1, 2年次の教科書や問題集で復習する。または、予習する。

(3) 担当者からのアドバイス

- ・解説を聞いて(見て)わかったつもりになるのではなく、自分の手を動かして問題を必ず解く。

3 学習計画

	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	式と証明、複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数 対数関数 微分法 積分法 数列 平面ベクトル・空間ベクトル	基本的計算力の定着をはかる。 各公式を正しく使えるようにする。 確実な計算力と判断力をつける。 様々な問題に取り組み、いろいろな解法を理解する。 いろいろな解法パターンを身につける。
後期	総合的課題探求	式と証明、複素数と方程式の基本事項を用いて様々な問題が解けるようにする。 図形と方程式を用いた問題を解く。 三角関数を用いた問題を解く。 指数関数、対数関数を用いた問題を解く。 微分法、積分法を用いた問題を解く。 数列を用いた問題を解く。 平面ベクトル、空間ベクトルを用いた問題を解く。

4 観点別評価

計110時間(48分授業)

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分及びベクトル、数列の考え方に興味をもつとともに数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分及びベクトル、数列における数学的な見方や考え方を身につけている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分及びベクトル、数列において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分及びベクトル、数列における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期テスト・課題テスト・課題の提出、小テスト、授業態度等を考慮して評価します。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	数学・⑥数学特別講座・2単位
使用準教科書	新編数学 I (数研出版) 新編数学A (数研出版)			副教材	テスト式就職数学 数学 I・A (中部日本教育文化会)

1 科目の目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 2. 事象を数学的に考察し、処理する能力を高める。 3. 数学的な見方や考え方の良さを理解し、それらを積極的に活用する態度を育てる。 4. 数学 I・数学Aの両科目に渡った課題にも対応できる力を育てる。
--

2 学習について

<p>(1) 授業形態</p> <p>一斉授業</p> <p>(2) 学習方法</p> <p>① 予習・復習の方法</p> <p>(予習) 副教材の見開き左半分のパージをよく読み、自分で問題を解く。 (復習) 授業で行った内容と同じ問題をもう一度自分で解いてみる。</p> <p>② 授業における学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者の解説をしっかりと聞き、重要と思われる箇所はノートをとる。 ・計算する時には、自分で手を動かして実際にノートに解く。 <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し問題を解く。 <p>(3) 担当者からのアドバイス</p> <p>特になし</p>

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 基本的な計算演習など 無理数	四則演算、指数法則、乗法公式などを確実に使えるようにする。 計算を工夫して行い、効率よくできるようにする。
	I 期末 様々な関数	関数の意味、グラフの有用性を理解する。
	II 期中間 三角比	三角比の成り立ち、定義を確認。ピラミッドと三角比の関係を知る。
後期	II 期末 場合の数、確率	基本的な確率の問題を解く。
	年次末 割合の計算(百分率と歩合)など 様々な文章問題(速度や濃度の問題など)	歩合と百分率との関係を理解する。百分率がどのような場面で使われているかを知る。積み立て預金の計算など問題文から式を作ることができる。

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数と式、関数、図形と計量、確率、いろいろな計算の考え方に関心をもつとともに数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、関数、図形と計量、確率、いろいろな計算における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、関数、図形と計量、確率、いろいろな計算において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式、関数、図形と計量、確率、いろいろな計算における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

以上の観点をふまえ、定期テスト・課題テスト・課題の提出、小テスト、授業態度等を考慮して評価します。

学年	3学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	数学・⑦数学探究・2単位
使用準教科書	新編数学Ⅲ(数研出版) 新編数学Ⅰ・新編数学A(数研出版) 新編数学Ⅱ・新編数学B(数研出版)			副教材	イニシャルノートⅠ・A(数研出版) イニシャルノートⅡ・B(数研出版)

1 科目の目標

適切なテーマによる課題学習を通して、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態	基礎・基本の定着を図るため、既習事項を復習。適切なテーマによる課題学習に取り組む。
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法</p> <p>【予習】教科書から、何を学ぶか、内容をおおまかにつかむ。 【復習】学んだ内容と計算力を、問題を解くことにより確実にする。</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>予習でつかんだ内容の確認とそれを具体的に実現する計算力を学ぶ。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <p>副教材を積極的に活用し、類題、応用問題を通して、基本事項の大切さを理解する。</p>
(3) 担当者からのアドバイス	その日に学んだことは、その日のうちに確実に理解する。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 複素数平面 式と曲線	複素数平面、極形式、ド・モアブルの定理を理解する。2次曲線を理解し、曲線の媒介変数表示・極方程式表示を理解する。
	I 期末 関数 極限	分数関数、無理関数、逆関数、合成関数を理解する。数列、関数の極限、関数の連続性を理解する。
	II 期中間 微分法 微分法の応用 適切なテーマによる課題学習	積・商・合成関数の微分法さらにいろいろな関数の導関数を理解する。接線、関数の増減・極大極小・凹凸・最大最小を理解し方程式、不等式へ応用する。
後期	II 期末 積分法とその応用	置換積分法、部分積分法を理解する。いろいろな関数の不定積分、定積分を計算する。図形の面積、体積を求める。
	年次末 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Ⅲの総合的な学習	適切なテーマによる、極限、微分法、積分法及び行列、平面上の曲線の課題学習に取り組む。

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
関数、極限、微分法、積分法及び複素数平面、式と曲線に関心をもつとともに数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、関数、極限、微分法、積分法及び複素数平面、式と曲線における数学的な見方や考え方を身に付けている。	関数、極限、微分法、積分法及び複素数平面、式と曲線において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	関数、極限、微分法、積分法及び複素数平面、式と曲線における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期テスト・課題テスト・課題の提出、小テスト、授業態度等を考慮して評価します。

学年	3学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	理科・②物理探究・4単位
使用準教科書	改訂 物理基礎(東京書籍) 改訂 物理(東京書籍)			副教材	改訂版 物理図説(数研出版) 改訂 ニューグローバル物理基礎+物理(東京書籍)

1 科目の目標

2年次の「物理基礎」と3年次の「物理」の知識を基礎として、さらなる物理的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然の現象に対する関心や探究心を高める。物理学的に探究する能力と態度や説明力を育てると共に、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、さらなる科学的な自然観・思考力・表現力を育成する。

2 学習について

(1) 授業形態

主に物理教室での講義、各分野での基本的な演示実験などを行い、再確認させる。
さらなる探究心を高めたり、自己解決能力や、口頭による説明能力を養うことを実施する。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

授業で学んだところの知識や理解した内容を定着させるために、速やかに授業プリントを用いて復習する。
事前に渡される授業プリントを予習しておくことが望ましい。

② 授業における学習方法

授業に真剣に参加すること。
なぜ、と言う疑問を思い浮かべながら、ひたすら考え、物理現象の探究に全力を尽くすこと。

③ 家庭学習のポイント等

課題研究でわからないこと、調べたいことがあった時、解決する手段・方法などを知っておくようにする。
日頃から、科学的な読み物や新聞の科学欄などに接して、科学的な教養を養うように努めること。

(3) 担当者からのアドバイス

数学的思考の強い分野であり、物事の本質がわかりにくくなる場合があるので復習することが理解への近道となる。
基礎的な物理の内容が終了しだい、科学的な自然観の再確認とさらなる知識の発展的内容となるので、科学的視点の意識をしっかりと持ち学習することが大切である。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 力学 【古典力学の確認と考察】	力学についてさらなる理解を深めるため情報機器などを活用する。教科書の実験を通して科学的な自然観を再確認しながら発展的な知識や思考力を身に付ける。
	I 期末 波動 【古典力学の確認と技術への応用】	波動についてさらなる理解を深めるため、情報機器などを活用する。教科書の実験を通して科学的な自然観を再確認しながら発展的な知識を理解させる。
後期	II 期中間 電磁気学 【古典力学から電磁気学への思考】	電磁気学についてさらなる理解を深めるため、情報機器などを活用する。教科書の実験を通して科学的な自然観を再確認しながら発展的な知識や思考力を身に付ける。
	II 期末 原子物理学 【古典力学から現代物理学(素粒子)へ、技術の応用】	原子物理学についてさらなる理解を深めるため、情報機器などを活用する。教科書の実験を通して科学的な自然観を再確認しながら発展的な知識を理解させる。

4 観点別評価

計146時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
物理的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	物理学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを明確に表現している。	物理的な事象・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・検証を科学的に探究する技能を身につけている。	物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、課題レポート、小テスト、授業への意欲、プレゼン等、総合的に判断する。
提出物を出さない、授業への関心を示さない、遅刻等については細かい指導を行う。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	理科・②化学探究β・4単位
使用教科書	改訂 新編 化学基礎 新編 化学(東京書籍)	化学基礎 (東京書籍)		副教材	2018セミナー化学基礎+化学 三訂版 フォトサイエンス化学図録

1 科目の目標

1年次の「化学基礎」および「化学」の知識を基礎として、基本的な概念や原理・法則を理解を深める。さらなる化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、科学的な自然観・思考力・表現力を育成する。

2 学習について

(1) 授業形態

主に教室での講義と演習、進度に合わせて化学実験室において実験を行う。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

[予習]教科書に目を通し、今までに学習した内容を確認し、疑問点について整理しておく。

[復習]問題を解き、授業で学習した事項の重点を再確認する。

② 授業における学習方法

板書事項をただ書き写すのではなく、説明の重要点をしっかりとメモする。

積極的に問題を解く。

わからない箇所や疑問な点は積極的に質問する。

③ 家庭学習のポイント等

現象を視覚的にイメージして理解する。

学んだことを問題集を使って演習する。

(3) 担当者からのアドバイス

わからない事項・問題は、必ず質問する。

応用・発展問題に対応できる力をつけることを目的とした演習の科目で、それを意識した問題演習を実施する。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 物質の状態と変化 溶液の性質 固体の構造	状態変化を学習し気体の性質を理解する。 希薄溶液の性質やコロイドについて理解する。 化学結合と各結晶の原子の配列を理解する。
	I 期末 化学反応と熱・光 電池と電気分解 化学反応の速さ 化学平衡	化学反応に伴う熱・光エネルギーの出入りについて学ぶ。 酸化還元反応を理解し、電池と電気分解について学ぶ。 反応速度を変える条件を理解する。 平衡移動の原理について学習する。
	II 期中間 電解質水溶液の平衡 非金属元素・典型金属元素	電離平衡を理解し、水溶液のpHについて学習する。 非金属元素、典型金属元素について学習する。
後期	II 期末 遷移元素 有機化合物 高分子化合物	遷移元素および生活に関わる無機物質について学習する。 有機化合物について学習する。 生活に関わる高分子化合物について学習する。
	年次末 化学のまとめ	実験および課題解決学習により、化学のまとめをする。

4 観点別評価

計146時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、小テスト、実験レポート、課題、授業に対する意欲・態度、出席状況から総合的に評価する。

学年	3学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	理科・②生物探究β・4単位
使用準教科書	生物基礎(東京書籍) 生物(東京書籍) 改訂 生物(東京書籍)		副教材	スクエア最新生物図説neo (第一学習社)	

1 科目の目標

生物や生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、主体的に探究する能力と態度を育て、発展的な生物学の理解力や考察力を高める。

2 学習について

(1) 授業形態

講義形式及び課題解決学習、また実験や探究活動

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習: 1年次の生物基礎や2年次の生物などで習った範囲で関連する箇所は教科書を読んでおく。

復習: ノートの見直しをし、関連する資料を読んだりまとめたりする。

② 授業における学習方法

黒板に書かれた内容をノートにまとめる。

実験や探究活動では自ら工夫し取り組む姿勢が望まれる。

③ 家庭学習のポイント等

自分で興味のあることを調べ付け加えるなどの主体的な取り組みをすると理解が深まる。

(3) 担当者からのアドバイス

生物学は、丸暗記するとむしろ応用が利かず身につかない。さまざまな事象を関連づけて「理解」する努力が必要である。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 生物の多様性と保全	生態系や多様性に関する知識をもとに、環境保全について主体的にアプローチする 活用内容: 生態と環境(生物)
	I 期末 進化	生物の体の形や働きの変遷を学びながら、生物の進化について理解を深める 活用内容: 生物の進化と系統(生物)
	II 期中間 タンパク質と体	タンパク質が生命活動にどのように関わっているのかを学び、その仕組みを理解し、考察する 活用内容: 免疫(生物基礎)、生命現象と物質(生物)
後期	II 期末 生殖と遺伝	生命の連続性について、生殖や遺伝子発現のしくみなどをもとに理解を深め、観察・実験に主体的に取り組む 活用内容: 遺伝子(生物基礎、生物)、生殖と発生(生物) 実験と探究: DNAの抽出、だ腺染色体の観察、減数分裂と受精
	考查後 生物の体と反応	生物の体を構成する細胞に関する知識を定着させると 活用内容: 生物の多様性(生物基礎)、環境応答(生物) 実験と探究: 細胞の観察、ブタの眼の解剖、盲斑の検出

4 観点別評価

計146時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
生物や生命現象に対する探究心を持ち、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する態度を身につけている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、探究する過程を見通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを通して、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、上記の観点をふまえ、定期考查の得点をもとに、実験レポート、課題、授業態度などを加味して総合的に評価する。

学年	3学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	理科・⑤⑥物理・5単位
使用教科書	改訂 物理(東京書籍) 改訂 物理基礎(東京書籍)			副教材	改訂 ニューグローヴル物理基礎+物理(東京書籍) 改訂版 物理図説(数研出版)

1 科目の目標

2年次の「物理基礎」の知識を基礎として、「物理」を学ぶ。物理的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然の現象に対する関心や探究心を高める。物理学的に探究する能力と態度や説明力を育てると共に、基本的な概念や原理・法則を理解を深め、さらなる科学的な自然観・思考力・表現力を育成する。

2 学習について

(1) 授業形態	主に物理教室での講義、各分野での基本的な演示実験などを行い、再確認させる。 さらなる探究心を高めたり、自己解決能力や、口頭による説明能力を養うことを実施する。
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法</p> <p>授業で学んだところの知識や理解した内容を定着させるために、速やかに授業プリント及び問題集を用いて復習する。事前に渡される授業プリントを予習しておくことが望ましい。</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>授業に真剣に参加すること。 なぜ、と言う疑問を思い浮かべながら、ひたすら考え、物理現象の探究に全力を尽くすこと。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <p>課題研究でわからないこと、調べたいことがあった時、解決する手段・方法などを知っておくようにする。 日頃から、科学的な読み物や新聞の科学欄などに接して、科学的な教養を養うように努めること。</p>
(3) 担当者からのアドバイス	<p>数学的思考の強い分野であり、物事の本質がわかりにくくなる場合があるので復習することが理解への近道となる。 基礎的な物理の内容が終了したい、科学的な自然観の再確認とさらなる知識の発展的内容となるので、科学的視点の意識をしっかりと持ち学習することが大切である。</p>

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 力学 【古典力学の確認と考察】	力学についてさらなる理解を深めるため情報機器などを活用する。教科書の実験を通して科学的な自然観を再確認しながら発展的な知識や思考力を身に付ける。
	I 期末 波動 【古典力学の確認と技術への応用】	波動についてさらなる理解を深めるため、情報機器などを活用する。教科書の実験を通して科学的な自然観を再確認しながら発展的な知識を理解させる。
後期	II 期中間 電磁気学 【古典力学から電磁気学への思考】	電磁気学についてさらなる理解を深めるため、情報機器などを活用する。教科書の実験を通して科学的な自然観を再確認しながら発展的な知識や思考力を身に付ける。
	II 期末 原子物理学 【古典力学から現代物理学(素粒子)へ、技術の応用】	原子物理学についてさらなる理解を深めるため、情報機器などを活用する。教科書の実験を通して科学的な自然観を再確認しながら発展的な知識を理解させる。

4 観点別評価

計183時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
物理的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	物理的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを明確に表現している。	物理的な事象・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・検証を科学的に探究する技能を身につけている。	物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查、課題レポート、小テスト、授業への意欲、プレゼン等、総合的に判断する。提出物を出さない、授業への関心を示さない(居眠り、私語など)、遅刻等は減点対象とする。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	理科・⑤⑥化学・5単位
使用教科書	新編 化学(東京書籍)			副教材	2018セミナー化学基礎+化学 三訂版 フォトサイエンス化学図録

1 科目の目標

1年次の「化学基礎」の知識を基礎として、基本的な概念や原理・法則を理解を深める。さらなる化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、科学的な自然観・思考力・表現力を育成する。

2 学習について

(1) 授業形態

主に教室での講義と演習、進度に合わせて化学実験室において実験を行う。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

[予習]教科書に目を通し、今までに学習した内容を確認し、疑問点について整理しておく。

[復習]問題を解き、授業で学習した事項の重点を再確認する。

② 授業における学習方法

板書事項をただ書き写すのではなく、説明の重要点をしっかりとメモする。

積極的に問題を解く。

わからない箇所や疑問な点は積極的に質問する。

③ 家庭学習のポイント等

現象を視覚的にイメージして理解する。

学んだことを問題集を使って演習する。

(3) 担当者からのアドバイス

知識の定着をはかるために家庭では復習をする時間を確保し問題を繰り返し練習すること。

分からない箇所や疑問点はそのままにせず、積極的に質問をすること。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)	
前期	I 期中間	物質の状態と変化 溶液の性質 固体の構造	状態変化を学習し気体の性質を理解する。 希薄溶液の性質やコロイドについて理解する。 化学結合と各結晶の原子の配列を理解する。
	I 期末	化学反応と熱・光 電池と電気分解 化学反応の速さ 化学平衡	化学反応に伴う熱・光エネルギーの出入りについて学ぶ。 酸化還元反応を理解し、電池と電気分解について学ぶ。 反応速度を変える条件を理解する。 平衡移動の原理について学習する。
	II 期中間	電解質水溶液の平衡 非金属元素・典型金属元素	電離平衡を理解し、水溶液のpHについて学習する。 非金属元素、典型金属元素について学習する。
後期	II 期末	遷移元素 有機化合物 高分子化合物	遷移元素および生活に関わる無機物質について学習する。 有機化合物について学習する。 生活に関わる高分子化合物について学習する。
	年 次末	化学のまとめ	実験および課題解決学習により、化学のまとめをする。

4 観点別評価

計183時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、小テスト、実験レポート、課題、授業に対する意欲・態度、出席状況から総合的に評価する。

学年	3学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	理科・⑤⑥生物・5単位
使用教科書	改訂 生物(東京書籍)			副教材	スクエア最新図説生物(第一学習社) Let'sTryNote生物 Vol.1,2(東京書籍)

1 科目の目標

生物や生命現象に対する探求心を高め、生物学的に探究する能力と態度を身につける。
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め科学的な自然観を身につける。

2 学習について

(1) 授業形態

主に教室での講義、単元によって生物実験室での実験を行う。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

授業で学んだところは知識や理解したことを定着させるために、できるだけ速やかに自分で問題集をもちいて、問題を解いてみる。

事前に、教科書を読んでおくことが、理解するうえで望ましい。

② 授業における学習方法

学んだことをノートにまとめる。黒板を写すだけでなく、理解を深められるよう各自で工夫する。

③ 家庭学習のポイント等

課題研究でわからないこと、調べたい事があったとき、解決する手段・方法をなどを知っておくようにする。

日頃から、科学的な読み物や新聞の科学欄などに接して、科学的な教養を養うように努めるようにする。

(3) 担当者からのアドバイス

生物基礎に比べ非常に高度な内容をたくさん学習するため、しっかりと家庭学習することが理解への近道である。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 生命現象と物質 (細胞・タンパク質・代謝とエネルギー)	細胞の内部構造やタンパク質、呼吸や光合成のしくみを学習し、様々な物質が生命現象を支えていることを理解する。
	I 期末 遺伝子の働き (遺伝情報の発現・遺伝子の発現調節・バイオテクノロジー)	DNAの複製や遺伝子の発現、遺伝子を扱う技術技術について学び、遺伝のしくみを理解するとともにその原理と人間社会に対する影響について考えを深める。
	II 期中間 生殖と発生(生物の生殖と配偶子の形成・動物の発生としくみ・発生をつかさどる遺伝子・植物の発生)	生物の生殖や発生について学習し、動物と植物の配偶子形成から形態形成までのしくみを理解する。
後期	II 期末 生物の環境応答(動物の刺激の需要と反応・動物の行動・植物の環境応答)	環境の変化に生物がどのように反応しているかを学習し、生物が外界の変化を感知し、それに反応するしくみを理解する。
	考查後 これまでのまとめ・実験・演習	まとめとして応用問題に取り組む。また、演習や実験を通して理解を深める。

4 観点別評価

計183時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を見通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

以上の観点をふまえ、定期考查、実験レポート、課題レポート、授業への意欲等、総合的に判断する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	理科・⑥生物基礎探究・2単位
使用準教科書	生物基礎(東京書籍) 生物(東京書籍) 改訂 生物(東京書籍)		副教材	スクエア最新生物図説neo (第一学習社)	

1 科目の目標

1年次の生物基礎の定着をはかり、さらに生物の内容を交えながら発展的な学習を行い、理解力・考察力を高める。また実験や探究活動を通して主体的に考え行動する力を養う。

2 学習について

(1) 授業形態	講義形式及び課題解決学習、また実験や探究活動
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法</p> <p>予習: 指示された次回の内容がある場合には資料を読んでおく。 復習: ノートの見直しをし、関連する資料を調べる。</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>黒板に書かれた内容をノートにまとめる。 実験や探究活動では自ら工夫し取り組む姿勢が望まれる。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <p>自分で興味のあることを調べ付け加えるなどの主体的な取り組みをすると理解が深まる。</p>
(3) 担当者からのアドバイス	生物学は、丸暗記するとむしろ応用が利かず身につかない。さまざまな事象を関連づけて「理解」する努力が必要である。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 細胞	細胞の構造を理解し、生物の基本構造についての考えを深め、実験観察を行い、探究する態度を身につける 活用内容: 生命活動(生物基礎)、タンパク質(生物)
	I 期期末 代謝	代謝に関する基礎的なしきの定着をはかるとともに、光合成や呼吸に関わる実験を行い理解を深める 活用内容: 生命活動(生物基礎)、代謝とエネルギー(生物)
	II 期中間 遺伝子	遺伝子が生命現象にどのように関わっているのかを理解し、問題解決学習を通して考察する力を身につける 活用内容: 遺伝子(生物基礎、生物)
後期	II 期期末 体内環境を維持する仕組み	体内環境を維持するためにどのような現象が起こっているか理解を深め、問題解決学習を通して考察する力を身につける 活用内容: 体内環境(生物基礎)、環境応答(生物)
	考查後 生物の多様性	多様性とは何で決まるものなのかを理解するとともにモデル実験等を行い理解を深める 活用内容: 生物の多様性(生物基礎)、生態と環境(生物)

4 観点別評価

計73時間 (48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活で見られる生物や生命現象に対する探究心を持ち、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する態度を身につけている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、探究する過程を見通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを通して、基本操作を習得するとともに、これらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、上記の観点をふまえ、定期考查の得点をもとに、実験レポート、課題、授業態度などを加味して総合的に評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	理科・⑧化学探究α・2単位
使用教科書	改訂 新編 化学基礎 新編 化学(東京書籍)	新編 化学基礎 化学(東京書籍)	(東京書籍)	副教材	2018セミナー化学基礎+化学 三訂版 フォトサイエンス化学図録

1 科目の目標

1年次の「化学基礎」および「化学」の知識を基礎として、基本的な概念や原理・法則を理解を深める。さらなる化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、科学的な自然観・思考力・表現力を育成する。

2 学習について

(1) 授業形態

主に教室での講義と演習、進度に合わせて化学実験室において実験を行う。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

[予習]教科書に目を通し、今までに学習した内容を確認し、疑問点について整理しておく。

[復習]問題を解き、授業で学習した事項の重点を再確認する。

② 授業における学習方法

板書事項をただ書き写すのではなく、説明の重要点をしっかりとメモする。

積極的に問題を解く。

わからない箇所や疑問な点は積極的に質問する。

③ 家庭学習のポイント等

現象を視覚的にイメージして理解する。

学んだことを問題集を使って演習する。

(3) 担当者からのアドバイス

わからない事項・問題は、必ず質問する。

応用・発展問題に対応できる力をつけることを目的とした演習の科目で、それを意識した問題演習を実施する。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 物質の状態と変化 溶液の性質 固体の構造	状態変化を学習し気体の性質を理解する。 希薄溶液の性質やコロイドについて理解する。 化学結合と各結晶の原子の配列を理解する。
	I 期末 化学反応と熱・光 電池と電気分解 化学反応の速さ 化学平衡	化学反応に伴う熱・光エネルギーの出入りについて学ぶ。 酸化還元反応を理解し、電池と電気分解について学ぶ。 反応速度を変える条件を理解する。 平衡移動の原理について学習する。
	II 期中間 電解質水溶液の平衡 非金属元素・典型金属元素	電離平衡を理解し、水溶液のpHについて学習する。 非金属元素、典型金属元素について学習する。
後期	II 期末 遷移元素 有機化合物 高分子化合物	遷移元素および生活に関わる無機物質について学習する。 有機化合物について学習する。 生活に関わる高分子化合物について学習する。
	年次末 化学のまとめ	実験および課題解決学習により、化学のまとめをする。

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、小テスト、実験レポート、課題、授業に対する意欲・態度、出席状況から総合的に評価する。

学年	3学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	理科・⑧生物探究α・2単位
使用準教科書	生物基礎(東京書籍) 生物(東京書籍) 改訂 生物(東京書籍)			副教材	スクエア最新生物図説neo (第一学習社)

1 科目の目標

生物や生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、主体的に探究する能力と態度を育て、発展的な生物学の理解力や考察力を高める。

2 学習について

(1) 授業形態

講義形式及び課題解決学習、また実験や探究活動

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習:1年次の生物基礎や2年次の生物などで習った範囲で関連する箇所は教科書を読んでおく。

復習:ノートの見直しをし、関連する資料を読んだりまとめたりする。

② 授業における学習方法

黒板に書かれた内容をノートにまとめる。

実験や探究活動では自ら工夫し取り組む姿勢が望まれる。

③ 家庭学習のポイント等

自分で興味のあることを調べ付け加えるなどの主体的な取り組みをすると理解が深まる。

(3) 担当者からのアドバイス

生物学は、丸暗記するとむしろ応用が利かず身につかない。さまざまな事象を関連づけて「理解」する努力が必要である。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 生態と環境・多様性の保全とエネルギー	生態系について、個体群から学び相互作用を理解する。 活用内容:個体群と生物群集(生物) 多様性の保全とエネルギー(生物基礎) 調べ学習と探究:身近な絶滅危惧種
	I 期末 物質生産とエネルギーの流れ 生物多様性	生態系についてエネルギー循環の観点から理解を深める。多様性について身近な生き物を通して自ら学ぶ力を養う。 活用内容:生態系の物質生産とエネルギーの流れ・生物多様性(生物)生命活動とエネルギー(生物基礎)
	II 期中間 生命の起源と生物の変遷	生物がどのように進化してきたのか学ぶことを通して生き物の共通性や多様性に関する理解を深める。 活用内容:生物の変遷(生物)共通性と多様性(生物基礎)
後期	II 期末 進化のしくみ	種とは何か、進化はどのように起こるかを理解する。 活用内容:進化のしくみ(生物)
	考查後 まとめ・実験・演習	これまで学んだ知識を生かし、総合的に生物を捉える力を養う。調べ学習や演習により、課題解決能力をはぐぐむ。 演習:図鑑による生物調べ 細胞の観察

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
生物や生命現象に対する探究心を持ち、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する態度を身につけている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、探究する過程を見通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを通して、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、上記の観点をふまえ、定期考查の得点をもとに、実験レポート、課題、授業態度などを加味して総合的に評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	理科・⑨化学基礎探究・2単位
使用準教科書	改訂 新編 化学基礎 (東京書籍) 新編 化学 (東京書籍)			副教材	

1 科目の目標

1年次の化学基礎の定着をはかり、さらに化学の内容を交えながら発展的な学習を行い、理解力・考察力を高める。また実験や探究活動を通して主体的に考え行動する力を養う。

2 学習について

(1) 授業形態

講義形式及び課題解決学習、また実験や探究活動

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習:教科書に目を通し、今までに学習した内容との関連や疑問点について整理しておく。

復習:授業で学習した事柄についてノートや教科書で確認し、まとめる。

② 授業における学習方法

説明や板書については要点を絞ってノートを取る。

わからない箇所や疑問点は積極的に質問する。

③ 家庭学習のポイント等

特に課題解決学習については、しっかりと予習を行う。

基本的事項の理解を確認するために、積極的に問題を解く。

(3) 担当者からのアドバイス

わからない箇所や疑問点はそのままにせず、積極的に質問をすること。

応用・発展問題に対応できる力をつけることを目的とした演習の科目で、それを意識した問題演習を実施する。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)	
前期	I 期中間	物質の成分と構成元素 物質の三態 原子の構造・電子配置と周期表	混合物の分離法と構成元素について学習する。 物質の三態について学習する。 原子の構造を理解し、電子配置と周期表について学ぶ。
	I 期末	化学結合と物質の分類 原子量・分子量・式量	4種類の結晶とその性質について学習する。 原子量の定義を理解し、分子量や式量の求め方を学ぶ。
	II 期中間	物質量と溶液の濃度 化学反応式とその量的関係	物質量の概念を学習する。 化学反応を化学反応式で表し、その量的関係を学習する。
後期	II 期末	酸・塩基と中和反応 酸化還元反応とその応用	酸・塩基について学習し、中和反応を理解する。 酸化還元反応について学習する。
	学 年末	化学基礎のまとめ	実験および課題解決学習により化学基礎のまとめをする。

4 観点別評価

計73時間 (48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、上記の観点をふまえ、定期考查の得点をもとに、実験レポート、課題、授業態度などを加味して総合的に評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	保健体育・体育・2単位
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)			副教材	なし

1 科目の目標

心と体を一体として捉え、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。
健康の保持増進の為の実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉展開授業及び種目選択授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

特になし

② 授業における学習方法

自己の健康管理に注意し、怪我防止対策を万全にする。 指定の体育着、シューズを着用すること。
貴重品の管理を行うこと。

③ 家庭学習のポイント等

特になし

(3) 担当者からのアドバイス

健康・安全や運動について理解し、運動を合理的に実践する能力を身に付けてほしい。
また、生涯にわたって運動に親しみ、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身に付けてほしい。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	4 オリエンテーション(1) 体づくり運動(3) (4)	年間計画の把握 体ほぐし運動
	5 6 体育理論(2) 陸上競技(16) (ハードル/走幅跳/円盤投) (18)	近代スポーツの変遷 短距離走、種目内選択(ハードル・走幅跳・円盤投)
	7 8 9 体育理論(2) 屋外型球技種目選択(12) (ソフトボール/テニス/サッカー) (14)	現代スポーツの課題 発展的技術の習得、ゲーム
後期	10 陸上競技(6) (6)	持久走(2000m/1200m)
	11 12 体育理論(4) 屋内型球技種目選択(21) (バスケットボール/バレーボール/バドミントン)	これからのスポーツの発展 発展的技術の習得、種目別にゲームを行う
	1 体づくり運動(6) (31)	社会体育的な体づくり
	2	
	3	

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、実技試験に加え、授業への意欲・関心・態度及び出席状況を含め総合的に判断し評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	芸術・⑨音楽Ⅱ・2単位
使用教科書	教育出版 「Tutti」音楽Ⅱ			副教材	プリント

1 科目の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と、主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化について理解を深める。

2 学習について

(1) 授業形態	教室での講義、自主学習、グループ学習。
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法 特になし。</p> <p>② 授業における学習方法 音や音楽に興味を持ち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、楽しみながら参加すること。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等 日常生活の中にある音や音楽に興味を持つこと。</p>
(3) 担当者からのアドバイス	3年生では、1年生で身につけた基礎的な能力をさらに深めることで、豊かな表現力を伸ばして行きます。グループ学習では、自分の役割を考え、他の人を思いやる気持ちを持ち取り組んでください。

3 学習計画

	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	〈歌唱〉 ①コンコーネ50番より、重唱 ②日本の歌 ③外国の歌 〈器楽〉 ①ハンドベルアンサンブル 〈鑑賞〉 ①舞台芸術の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・声を合わせて歌うことの楽しさや、声によるハーモニーの美しさを実感する。 ・日本語を美しく発音しながら、歌う方法を身につける。 ・各国の歌曲の特徴を知り、原語での歌唱を通して美しさを味わい、発声や表現を工夫する。 ・ハンドベルの響きの美しさを味わう。 ・ミュージカルを鑑賞し、舞台芸術の面白さを味わう。
後期	〈器楽〉 ①リコーダーアンサンブル 〈鑑賞〉 ①舞台芸術の魅力 〈アンサンブル発表〉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のパートの役割を考えながら、アンサンブルの楽しさ、ハーモニーの美しさを味わう。 ・オペラを鑑賞し、歌劇表現の豊かさを味わう。 ・歌唱・器楽どちらかをグループ毎に選択し、発表に向け練習する。 ・人前で演奏することを意識し、グループで選曲や練習を行い、曲想豊かに表現する。

4 観点別評価

計 73時間(48分授業)

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ ・授業の取り組み(授業態度・グループ学習への参加状況など) ・提出物(プリント・ノート)の提出状況や内容 ・実技テストなどから、総合的に評価します。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	芸術・⑨美術Ⅱ・2単位
使用教科書	高校美術Ⅱ(光村出版)			副教材	巨匠シリーズ(美術出版) 美術特集シリーズ・表現美術史・DVD 技法ビデオ・その他

1 科目の目標

美術の表現及び鑑賞の能力を伸ばし、造形的な創造活動の喜びを味わう。
美的直感力、想像力を高め、創造的な表現と鑑賞能力を伸ばす。

2 学習について

(1) 授業形態

美術室における講義及び実技。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

制作課題の準備をする。(各自、制作の下書きや資料等を準備する。各自、教科書や美術図書で予習をおこなう。)

作品完成に向けた自己研究をおこなう。(各自、材料や技法の研究を進めていく。各自、作品のイメージづくりとともに自己表現の追求に努める。)

② 授業における学習方法

講義・実技・視聴覚教材及び映像メディア等による学習。

③ 家庭学習のポイント等

身近にあるデザインや画集、美術展の鑑賞・学習を通し自らの想像力や表現力を高めていくように努める。

自主的な作品制作に発展させていく。スマホ等で下書きの準備

(3) 担当者からのアドバイス

授業は、表現・鑑賞のいずれの場合も、生徒自身が主体的に取り組んでいく。

各自、資料を用意したり参考作品を鑑賞しながら、制作意欲を高めていく。

生徒自身が、この表現力、発想を豊かにする技法や制作材料の研究に取り組んでいく。

制作への創意工夫・向上努力及び自己表現の探求に努めていく。

意欲的態度(準備・用具の使い方・片付け等も含む)で授業に取り組んでいく。

個人はもとより、クラス全員が高め合う、授業環境で制作に当たる。

完成作品の展示鑑賞を通し、相互評価や表現法の学習をおこなっていく。(完成作品は名札を販売し、壁面に展示)

各作品は、期日を決め提出する。

3 学習計画

	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	オリエンテーション 素描(人物クロッキー(速描)・静物写生) 無彩色・有彩色の色面分割絵画 絵画(人物画-1点・静物画-1点、着色) デザイン(CDジャケット・カラー judeザイン・本の装丁・ポスター・ウクレレ、以上1点選択)	美術Ⅱの年間授業計画について理解する。 教科書の作例も参考に人物の表情を捉えモデルを観察しながら表し方を工夫する。 立体表現について理解し身近な人物の動きを捉えて描く。 コンテ、水彩絵の具、アクリル絵の具等で淡い色調を出しながら厚塗りの効果を出す。 レタリング(文字デザイン)とイラスト、面分割の構成を工夫する(画面構成)。イメージ、アイデアを下書きする。
後期	レリーフ画(浮き出し)作品 真鍮版スクラッチ 心象画 立体造形(アルミ線による立体表現) 映像メディア表現(カメラ、コンピュータを使った表現) 美術史 鑑賞(「新潟県高文連」作品鑑賞)	素材の持つ特性を知り表現のイメージを拡大する。 心の中に浮かんだ空想的な情景を表現する。 独自の造形活動へと発展する。造形のおもしろさを味わう。 各自で制作したCGをプリントアウトし作品鑑賞する。 教科書、画集、DVD、ビデオを通し美術史の全体を把握する。 同世代高校生の作品を鑑賞しながら自分の芸術環境を認識し作品意欲を高める。

4 観点別評価

計 73時間(48分授業)

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術や芸術文化に深い関心を持ち、創造活動に対して、主体的・意欲的に取り組む態度や喜びがあらわれている。	豊かな発想をもって主題を生み出し、美的な構想表現能力が発現されている。	美的創造活動を表現するため、技能を伸ばし、創意工夫しながら、個の表現につとめている。	美術や美術文化について、よりよく理解し、美への探求心を深めている。

5 評価方法

上記の観点をつまみ

①各学期末に実施する定期考査の成績 ②授業に対する真剣さ、意欲・態度 ③作品に対する創意・工夫

④作品の提出状況 ⑤出席状況 以上から総合的に判断し評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	芸術・⑨書道Ⅱ・2単位
使用教科書	「書Ⅱ」（光村図書）			副教材	

1 科目の目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞能力を伸ばし、書の伝統と文化について理解を深める。

2 学習について

(1) 授業形態

書道教室において実技授業を行う。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

復習 → 前時の授業を踏まえ発展させる。

② 授業における学習方法

- ・臨書・鑑賞・創作の3分野で展開する。
- ・解説や示範, 添削を行いながら指導する。

③ 家庭学習のポイント等

(3) 担当者からのアドバイス

様々な名跡(古典)を学び、鑑賞力と創造性を高めていくようにしてください。作品制作では自分の思いを表現できるように自己を見つめ、根気強くとり組んで欲しいと思います。その中で創造する楽しさや喜びを味わうことが出来ればと思います。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 ◎漢字の書 ◎文字の造形を学ぶ ・篆書	・文字・文化・書について ・「泰山刻石」「石鼓文」などを書く
	I 期末 ・隸書 ・草書	・「乙瑛碑」「木簡」などを書く ・「真草千字文」「書譜」などを書く
	中 II 期 ◎篆刻、刻字の表現を楽しむ	・篆刻(名言を刻す) ・刻字(好きな言葉を彫る)
後期	II 期末 ・行書 ・楷書 ・漢字の創作	・「集王聖教序」「松風閣詩卷」などを書く ・「始平公造像記」「張猛龍碑」などを書く ・好きな書体で書きたい文字を書く
	年次末 ◎仮名の書 ◎漢字仮名交じりの書 ・古典に学ぶ ・創作する	・連綿と墨継ぎによる表現、「高野切第一種」 ・散らし書きによる空間の美について、「継色紙」 ・表現の工夫(古典に表現を学ぶ, 用具用材など)

4 観点別評価

計 73時間(48分授業)

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書表現の諸要素を感受し、完成を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、費用減を工夫している。	創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表している。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の良さや美しさを創造的に味わっている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、作品、授業に対する意欲、態度、出席状況から総合的に評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	英語・英語表現Ⅱ・2単位
使用教科書	Vision Quest English Expression II (啓林館)		副教材	・Vision Quest English Expression II ・Workbook Hope (啓林館) ・総合英語 be New Edition	

1 科目の目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 学習について

(1) 授業形態	習熟度別編成による少人数授業。導入や指示の部分では英語を使った授業をする。
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法</p> 予習 ・教科書のStudy Points を読み、Exercisesの問題をノートに解答する。 復習 ・Study Pointsの例文を暗記し、Exercisesの問題を再度解く。ワークブックを学習する。『総合英語』の該当箇所を読む。be New Editionの問題を解く。 <p>② 授業における学習方法</p> 文法事項の習得のため、積極的に例文の暗記、問題の解答に取り組む。また、学習した内容を用いて積極的に自分の考えを表現する。 <p>③ 家庭学習のポイント等</p> 教科書の例文の暗記やbe New Editionの小テストに向けて、準備をする。
(3) 担当者からのアドバイス	英語を使って自分の考えを伝えるためには、基本的な英語の学力と、積極的に相手とコミュニケーションを取ろうとする態度が必要です。繰り返し練習して文法の基本事項を暗記し、それを使って英語で表現するように心がけよう。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 (Part1) Lesson4～7 動詞を決める Lesson8 動詞の形を決める	SVO, SVOO, SVC, SVOC 使役動詞, 知覚動詞, 話法 現在形(動作と状態), 現在(未来)進行形, 現在完了(進行)形
	I 期末 Lesson9～11 動詞の形を決める Lesson12 助動詞を使う Lesson13～15 修飾語を加える	過去形(動作と状態), 過去進行形, 過去完了(進行)形 義務・必要・推量 名詞の前置修飾、後置修飾、関係詞、不定詞、副詞節
	II 期中間 Lesson16～17 修飾語を加える Lesson18～19 比較を表す Lesson20 否定を表す (Part 2) Lesson1 パラグラフの構成・列挙・順序	名詞の前置修飾、後置修飾、関係詞、不定詞、副詞節 原級、比較級、最上級、最上級を意味する表現 No+名詞、部分否定、準否定 (Part 2)→パラグラフを書く 1つのトピックについて理解し、まとめて英文で表現する
後期	II 期末 Lesson2 例示・追加 Lesson3 比較・対照 Lesson4 原因・理由・結果 Lesson5 要点・要約 (Part3) Lesson1 プレゼンテーション	(Part3) 英語で発信する 原稿を書き、暗記した上、伝え方も練習して実施する。
	年次末 Lesson2 ディスカッション Lesson3 ディベート	役立つ表現を身につけ、テーマに沿って話し合う。 ディベートの進め方を理解し、肯定側、否定側の立場で原稿書き練習する。判定の仕方を学ぶ。

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心をもち、積極的な態度で言語活動に参加することで、自己を表現したり、他者とのコミュニケーションを図ろうとしている。	さまざまな話題やテーマについて、情報や考えなど、相手に伝えようとする内容を、英語で話したり書いたりして、適切に表現している。	表現の基礎となる文法事項を理解し、さまざまな話題やテーマについて、英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを理解している。	英語の学習を通して、言語や文化についての知識を身につけ、さまざまなテーマについての理解を深めようとしている。

5 評価方法

上記の観点をつまみ、定期考査70～80%、その他(課題テスト、小テスト、課題提出、授業中の発表など)20～30%を合計し、総合的に評価する。

学年	3学年	系列	全 系列	教科・科目・単位数	英語・①コミュニケーション英語Ⅲ・4単位
使用教科書	Grove English CommunicationⅢ(文英堂)		副教材	Grove English Communication Ⅲ WORKBOOK(文英堂)	

1 科目の目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、まとまった分量の英文を読んで情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。

2 学習について

(1) 授業形態

少人数による習熟度別授業。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習:教科書の英文を読み、内容を理解した上で、Master the Contents やPut it all together に取り組む。

復習:授業の確認をし、ワークブックの問題を解く。

② 授業における学習方法

予習をしてある前提で進度は速い。内容理解、語句・文法事項に関する質問に答え、確認する。

③ 家庭学習のポイント等

授業を確認の場と考え、予習・復習をする。週末課題を解き、解答を見て丁寧に自分の弱点を確認する。

(3) 担当者からのアドバイス

1, 2年次で学習したことを基に、より速く、正確に英文を読み取ることができるように学習を進める。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 (Unit 1) Lesson 1～8	様々な話題について、パラグラフを意識しながら短い英文を読み、内容についてまとめる。
	I 期末 (Unit 1) Lesson 9～12 (Unit 2) Lesson 13～14	長めの英文を読み、内容について要約したり、英問英答問題などに取り組む。語句や細かな文法事項の確認と練習問題を解いて理解を深める。
	II 期中間 (Unit 2) Lesson 15～20	長めの英文を読み、内容について要約したり、英問英答問題などに取り組む。語句や細かな文法事項の確認と練習問題を解いて理解を深める。
後期	II 期末 (Unit 2) Lesson 21～24 (Unit 3) Lesson 25～26	物語文やスピーチ文を読んで、登場人物の感情や著者が伝えたいメッセージを読み取り、グループで話あう。
	年次末 (Unit 3) FOR READING	戯曲を読み、感想文を書いて発表する。

4 観点別評価

計146時間(48分授業)

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうと努力することができる。	さまざまな話題やテーマについて、情報や考えなどを相手に伝えようとする内容を、英語で話したり書いたりして、適切に表現することができる。	表現の基礎となる文法事項を理解し、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを理解することができる。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、小テスト、課題提出状況、発表などを総合的に評価する。

学年	3学年	系列	全 系列	教科・科目・単位数	英語・⑤基礎英語・3単位
使用教科書	Grove English Communication I、II (文英堂)			副教材	英語長文Concert No.3 (いっぴな書店)

1 科目の目標

様々な題材について読んだり聞いたりする活動を中心に、情報や考えなどを的確に理解し自分の考えを深める能力を一層伸ばす。さらに、理解した題材をもとに話したり書いたりする活動も行い、他の技能もバランスよく鍛える。

2 学習について

(1) 授業形態

少人数による学習 (コミュニケーション英語 I、II の復習を含む)。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習: まず教科書の本文をさっと読み、問題を解く。その後、再度本文を読み、理解できない表現をCheckする。
復習: 授業内容を整理し、文法事項や語彙の確認をする。音読練習を最低15回は行う。

② 授業における学習方法

授業では本文内容を理解するだけでなく、理解した事柄について概要や自分の考えを伝える活動も行う。英語で積極的にコミュニケーションしようとする意欲をもち、多様な言語活動に意欲的に取り組む姿勢を望む。

③ 家庭学習のポイント等

授業で学習した内容を確実に理解した上で、学習した文法や言語表現を運用できるレベルまで繰り返し復習する。また、自宅でも音読練習を十分に行う。

(3) 担当者からのアドバイス

授業では、様々な題材を英語で読んだり聞いたりします。英文の内容をただ理解するだけでなく、その内容について自分の考えを持ったり、それを他の生徒と共有し合ったりして、物事を的確に見る目を育ててください。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 Grove I Communication Corner 1~5(メール、新聞記事、レシピ、本のレビュー日記) 英語長文Concert No.3 Section 1~4	説明文の読み取りやリスニングを通して内容を理解する。 内容に関して要約文を書く。 ペアやグループで発展的に話し合う。
	I 期末末 Grove I Communication Corner 6~10(歌、会話、ポスター、募集広告、図解) 英語長文Concert No.3 Section 5~8	図表などの読み取りやリスニングを通して内容を理解する。 内容に関して要約文を書く。 ペアやグループで発展的に話し合う。
	II 期中間 For Reading Hairspray 英語長文Concert No.3 Section 9~12	興味を持って映画の内容を理解しながら読む。 リスニングを通して内容を理解を深める。 ペアやグループで発展的に話し合う。
後期	II 期末末 Grove II Communication Corner 1~5(映画のレビュー、ガイドブック、ホームページ) 英語長文Concert No.3 Section 13~15-2	図表などの読み取りやリスニングを通して内容を理解する。 内容に関して自分の意見を書く。 ペアやグループで発展的に話し合う。
	年次末 Grove II Communication Corner 6~10(旅行の日程表、広告、インタビュー、手紙) 英語長文Concert No.3 Extra 1~3-2	説明文などの読み取りやリスニングを通して内容を理解する。 内容に関して自分の意見を書く。 ペアやグループで発展的に話し合う。

4 観点別評価

計110時間(48分授業)

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、自己を表現したり、他者とのコミュニケーションを図ろうとしている。	さまざまな話題やテーマについて、情報や考えなど、相手に伝えようとする内容を、英語で話したり書いたりして、適切に表現している。	表現の基礎となる文法事項を理解し、さまざまな話題やテーマについて、英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを理解している。	英語の学習を通して、言語や文化についての知識を身につけ、さまざまなテーマについての理解を深めている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、小テスト、課題提出状況、発表などを総合的に評価する。

学年	3学年	系列	全 系列	教科・科目・単位数	英語・⑥プラクティカル英語表現・2単位
使用教科書	Vision Quest English Expression I (啓林館)		副教材	精選演習 文法・語法・イディオム・会話表現 英文法・語法問題600 (いっずな書店)	

1 科目の目標

情報や自分の考えなどを的確に他に伝えるために必要な文法事項を効率的かつ確実に理解し、言語活動を通して実際に活用するレベルを目標とする。

2 学習について

(1) 授業形態

少人数による学習(英語表現Ⅰ、Ⅱの復習を含む)。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習: 英語表現Ⅰの教科書を振り返り、さらに「精選演習 文法・語法・イディオム・会話表現 英文法・語法問題600」の問題に取り組む。

復習: 授業で学んだ表現を英文法・語法問題600で再度確認し、理解し、できるまで取り組む。

② 授業における学習方法

予習時に理解できなかった事項を質問すると共に、言語活動に積極的に参加する。

③ 家庭学習のポイント等

授業で練習した表現や、間違えた箇所を再確認する。

(3) 担当者からのアドバイス

文法事項を確実に身につけた上で、英文を読んだり聞いたりして自分の考えなどを英語で表現することができるようにしよう。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 教科書 Activity 1,2,3 副教材 第1章, 第2章, 第3章, 第4章	[教科書]各課で学んだことを、実際に活用する言語活動を主にして、聞くこと・話すことの基本を養成する。
	I 期末 教科書 Activity 4,5,6 副教材 第5章, 第6章, 第7章, 第8章	[副教材] 情報や自分の考えなどを的確に他に伝えるために必要な文法の理解を深め、書くことの基本を養成する。
	II 期中間 教科書 Activity 7;8 副教材 第9章, 第10章, 第11章, 第12章, 第13章, 第14章	上記、教科書の場合に同じ。 上記、副教材の場合に同じ。
後期	II 期末 教科書 Activity 9,10 副教材 第15章, 第16章, 第17章, 第18章	上記、教科書の場合に同じ。 上記、副教材の場合に同じ。
	年次末 教科書 Activity 11,12 副教材 第19章, 第20章, 第21章, 第22章	上記、教科書の場合に同じ。 上記、副教材の場合に同じ。

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ディスカッションやディベートに取り組むことで、自分の考えを他に伝えようとしている。	文法事項と語彙を身につけ、情報や自分の考えなどを的確に他に伝えようとしている。	文法事項を理解し、さまざまな話題やテーマについて、英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを理解している。	「書くこと」「話すこと」を通して言語や文化についての知識を身につけ、さまざまなテーマについての理解を深めようとしている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、小テスト、課題提出状況、発表などを総合的に評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	英語・⑨プラクティカル・リスニング・2単位
使用準教科書	Vision Quest I、II (啓林館)			副教材	Listening Essentials 1.5 (啓隆社)

1 科目の目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、様々な話題について聞いたり話したりする能力を養う。

2 学習について

(1) 授業形態

少人数による学習

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習: CDを聞いて、問題に答える。

復習: 授業時に配布されるスクリプトを確認しながら音読練習を最低20回はする。また、授業で学習した表現や語彙の確認をする。

② 授業における学習方法

CDを聞きながら、ディクテーションを行う。スクリプトを確認した後、音読練習やシャドウイングをする。また、ペアやグループでリスニングとスピーキングの練習をする。

③ 家庭学習のポイント等

何回もCD聞き、ディクテーションをしっかりと行う。授業後は、①スクリプトを見ながらシャドウイング→②スクリプトを見ないでシャドウイングを繰り返し行う。また、使われていた表現を復習する。

(3) 担当者からのアドバイス

たくさんの英文を1回だけ聞くよりも、同じ英文を何度も聞く方がリスニング力は鍛えられます。生活のわずかなすきま時間を有効に活用して、繰り返し英文を聞いてください。また、ディクテーションやシャドウイングもしっかり行うこと。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)	
前期	I 期中間	Vision Quest I Lesson 1~6 Model Conversation/Expressing/ Activity Listening Essentials UNIT 1~4	(準教科書の場合) 内容聞きとり、発音、アクセント、イントネーション等を練習する。場面に応じた表現を練習し、ペアワークを通して使えるようになるまで高める。
	I 期末	Vision Quest I Lesson 7~12 Model Conversation/Expressing/ Activity Listening Essentials UNIT 5~8	(副教材の場合) リスニング問題を聞いて解答する。ディクテーションシートを使用して細部まで聞きとる。スクリプトを確認し、シャドウイングをする。ペアで音読練習し、使われている表現を覚える。覚えた表現を使って各内容に関して調べ、ペアやグループで話し合う。話し合った内容について発表し、意見交換をする。
	II 期	Vision Quest II Part3 Lesson 1 Listening Essentials UNIT 9~12	上記、準教科書の場合に同じ。 上記、副教材の場合に同じ。
後期	II 期	Vision Quest II Part3 Lesson 2 Listening Essentials UNIT 13~16	できるだけ多くの英文に触れて、上記活動を進める。
	年 次 末	Vision Quest II Part3 Lesson 3 Listening Essentials UNIT 17~20	できるだけ多くの英文に触れて、上記活動を進める。

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、自己を表現したり、他者とのコミュニケーションを図ろうとしている。	発音やイントネーションに注意して英語を音読したり、自分の考えをまとめて発表したりして、他者と意見を交わそうとしている。	さまざまな話題やテーマについて、英語で聞き取り、要点をとらえて内容を理解している。	英語の音声を聞くことで、外国の言語や文化に興味を持ち、知識を身につけて、さまざまなテーマについての理解を深めようとしている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查、小テスト、発表などを総合的に評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	保健体育・①スポーツ総合演習・4単位
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)			副教材	なし

1 科目の目標

スポーツの専門的な知識や高度な技能の総合的な活用を目指した課題研究を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフの実現及びスポーツの振興発展に関わることのできる資質や能力を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態	一斉展開授業
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法</p> <p>特になし</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>実習ノートを作成し、練習計画、内容、自己評価を行い提出する。 自己の健康管理に注意し、怪我防止対策を万全にする。 指定の体育着、シューズを着用すること。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <p>特になし</p>
(3) 担当者からのアドバイス	スポーツについて総合的に理解をし、その知識を主体的、合理的、計画的な実践に活用しスポーツの振興発展に関わる能力を養ってほしい。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 オリエンテーション 体づくり 陸上競技 課題研究	年間計画の把握 体ほぐし運動 ハードル走演習・ジャベリックスロー演習 ニュースポーツの知識・実践
	I 期末 テニス演習 サッカー演習 課題研究	発展的技能の習得、ゲーム 発展的技能の習得、ゲーム スポーツ指導・運営及び管理
	中間 II 期 ソフトボール演習 ニュースポーツ演習 課題研究	発展的技能の習得、ゲーム 発展的技能の習得、ゲーム スポーツ指導・運営及び管理
後期	II 期末 陸上競技 バスケットボール演習／バレーボール演習 バドミントン演習／卓球演習 課題研究	持久走演習(3000m／2000m) 発展的技能の習得、ゲーム 発展的技能の習得、ゲーム スポーツ指導・運営及び管理
	年次末 屋内型演習 課題研究	発展的技能の習得、ゲーム スポーツ指導・運営及び管理

4 観点別評価

計 146時間 (48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、実技試験に加え、授業への意欲・関心・態度及び出席状況を含め総合的に判断し評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	保健体育・⑤スポーツ概論・3単位
使用教科書	基礎から学ぶスポーツ概論 (大修館書店)			副教材	なし

1 科目の目標

スポーツについての総合的な理解を通して、その知識を運動の主體的、合理的、計画的な実践に活用できるようにするとともに、生涯を通じてスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を高める。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉展開授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

特になし

② 授業における学習方法

実習ノートを作成し、スポーツの歴史、問題点に着目した調べ学習、実践、自己評価を行い提出する。
実技あり、指定の体育着、シューズを着用すること。

③ 家庭学習のポイント等

新聞、ニュースに取り上げられているスポーツの問題などに興味・関心を寄せる。

(3) 担当者からのアドバイス

歴史を踏まえ、現在及び将来にわたり日常生活に直結した運動の必要性や効果、構造などに応じた合理的方法、知識、運営管理について学び、実技により実践できる能力を高める。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの魅力について考えよう ・スポーツのこれまでとこれからを考えよう ・現代スポーツの問題点を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの魅力とその楽しみ方を学ぶ ・スポーツの始まり、その展開、これからのあり方を学ぶ ・ドーピングや現代スポーツがかかえる諸問題について学ぶ
	<ul style="list-style-type: none"> ・競技力に必要な基礎知識を知ろう ・競技力を向上させる練習法を知ろう ・メンタルトレーニングについて知ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習と上達の関係を理解し、熟練動作の特徴を学ぶ ・適切な練習方法を知り、合理的な練習を工夫する ・試合で実力を発揮する方法について学ぶ
	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの競技スポーツへの実践と競技力向上を目指し、探求心を高める
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身体をマネジメントしよう ・栄養がパフォーマンスを高める ・効果的なスポーツの指導法を知ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ障害について理解し、対処方法を学ぶ ・栄養効果とパフォーマンス向上の関連性を学ぶ ・多角的な知識を理解し、効果的な指導方法を考える
	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体育での活躍を目的とし、スポーツ指導者としての実践に向けた現状、課題について学ぶ

4 観点別評価

110時間(48分授業)

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
スポーツ活動の合理的方法に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の競技種目や健康スポーツに対して、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	スポーツ活動の合理的方法について、課題解決に役立つ基礎知識について理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、授業への取り組み、課題やノート、レポート提出や学習内容の実践状況などを考慮し、総合的に判断し評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	保健体育・⑥スポーツVI・2単位
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)			副教材	なし

1 科目の目標

体づくり運動の専門的な理解とその活用を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、実生活に役立てることができるようになるとともに、生涯を通じてスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態	一斉展開授業
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法</p> <p>特になし</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>実習ノートを作成し、練習計画、内容、自己評価を行い提出する。 自己の健康管理に留意し、怪我等の防止対策を行う。指定の体育着、シューズを着用する。</p> <p>③ 家庭学習のポイント 等</p> <p>特になし</p>
(3) 担当者からのアドバイス	<p>体づくり運動の行い方に関する知識を活用して課題解決するための思考力・判断力及び主体的に学習に取り組む態度を育てる。また、体力の向上を図るとともに、それらを通してスポーツⅠ～Ⅲに応じた体づくり運動を構成し、積極的活用することができる資質や能力を育てる。</p>

3 学習計画 2単位

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	体づくり運動の理解と実践(15)	体ほぐし運動と体力を高める運動を取り上げ、それぞれの特性に応じた運動の計画と実践
	自重を利用した体力を高める運動(15)	体ほぐし運動学習から、自らの実践を深め、他者に対して実践したりできるようにする
	目的に応じた運動の理解と実践(15)	スポーツⅠ～Ⅲに関連する体力および健康に関連する体力の向上させ、さまざまなスポーツで実践・応用する。
後期	ライフステージに応じた運動の計画と実践(14)	さまざまな年代やスポーツ環境に応じた体力トレーニング計画および実践
	ウェイトトレーニングによる体力を高める運動(14)	更なる体力の向上のためにウェイトトレーニングの安全な実施と計画的なトレーニングを行う。

4 観点別評価

計73時間 (48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、実技試験に加え、授業への意欲・関心・態度及び出席状況を含め総合的に判断し評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	家庭・①フード・4単位
使用教科書	フードデザイン(教育図書)			副教材	ビジュアルクッキング(教育図書) 生活学Navi(実教出版) フードデザインワークノート(教育図書)

1 科目の目標

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

食に関する情報収集をする。実習内容を家庭でも実践する。

② 授業における学習方法

家庭においてよりよい食生活を送るためにできることについて考えながら、意欲的に取り組む。

③ 家庭学習のポイント等

新聞や書籍などを読む。

(3) 担当者からのアドバイス

食に関して常日頃から興味・関心をもつようにする。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	中 I 期 健康と食生活 食物検定受験に向けて I 期中間考查	健康維持のための食生活について理解する。 食物検定4級受験
	I 期期末 調理の基本 食物検定受験に向けて	調理は食品を食事の目的に合うようにつくりかえることであることを理解し、調理器具や調理の方法を知ること、実際の調理をする前の下地づくりをする。 食物検定3級受験
後期	II 期中間 栄養素・食品の特徴 調理実習	各種栄養素の特徴と体内でのはたらきについて理解させる。食品衛生と安全に十分配慮して、食品を適切に扱うことができるようにする。 基本的な調理技術を学び、日常食、行事食をつくることができるようにする。 ※調理実習・実験は適宜行う。
	II 期期末 豊かな食生活をつくる II 期末考查	旬の食材や地元の食材について関心を持ち、生活の中に取り入れる大切さを理解する。 (地域との連携:食生活改善推進委員との調理実習) (ホームプロジェクト:弁当のおかずづくり)
	年次末 調理と献立	食事摂取量や食品群別の摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめ、バランスの良い食事計画を立て、実践することができる。

4 観点別評価

計146時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食の役割に関心をもち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとしている。	自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断している。	主体的に食生活を営むために必要な食品の選択、調理、食生活の管理などの技術を調理実習を通して身につけようとしている。	食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として、栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、各考查成績、提出物、授業態度などを総合して評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	家庭・②子どもの発達と保育・4単位
使用教科書	子どもの発達と保育(実教出版)			副教材	子どもの発達と保育学習ノート(実教出版)

1 科目の目標

乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を身につける。
子どもの健全な成長を図る能力と態度を身につける。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

新聞記事をスクラップする。

② 授業における学習方法

板書を書き写すだけでなく、説明を自分なりにノートに書きながら、意欲的に取り組む。

③ 家庭学習のポイント等

新聞や書籍などを読む。

(3) 担当者からのアドバイス

保育に関して常日頃から興味・関心をもつようにする。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 子どもの発達の特性 保育技術検定受検に向けて I 期中間考查	発達と乳幼児の意義 発達と保育環境、児童観と発達観 保育技術検定4級受検(種目:造形表現、家庭看護)
	I 期期末 子どもの発達の過程 保育技術検定受検に向けて	子どもの発育、子どもの精神発達 人間関係の発達 (地域との連携:赤ちゃんふれあい体験) 保育技術検定3級受検(種目:造形表現、家庭看護)
後期	中 II 期 子どもの生活	生活と養護、子どもの遊び、生活習慣の形成 健康管理と事故防止(救急救命法) 製作(おもちゃなど)
	II 期期末 子どもの保育 II 期期末考查	保育の意義と重要性 家庭保育と集団保育 保育の方法、おやつ実習 (ホームプロジェクト:自分の幼少期について家族にインタビューする)
	年次末 子どもの福祉	子どもの福祉、子育て支援 製作(成長の記録)

4 観点別評価

計146時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
子どもの発達と保育などについて関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して主体的に学習活動に取り組んでいる。	子どもの発達と保育などについて、現代の家庭や地域の生活を見つめて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	子どもの発達や保育に関わる事柄について、実習や観察を通じて知識を深めることができ、子どもを取り巻く環境について推測・考察している。	子どもの発達や保育に関する幅広い知識を習得し、子どもの行動や生活に関する基本的な事項が理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、各考查成績、提出物、授業態度などを総合して評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	家庭・②生活と福祉・4単位
使用教科書	生活と福祉(実教出版)			副教材	学習ノート(実教出版)

1 科目の目標

高齢者の健康と生活、介護などに関する知識と技術を習得させ、高齢者の生活の質を高めるとともに、自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を身につける。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

健康や地域の福祉に関する情報収集をする。

② 授業における学習方法

家族の健康や地域の福祉と関連づけて考え、意欲的に取り組む。

③ 家庭学習のポイント等

新聞や書籍、地域の広報などを読む

(3) 担当者からのアドバイス

ボランティアをするなど、福祉や健康に関して平日頃から興味・関心をもつようにする。

3 学習計画

考查		単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間	人の一生と生活・健康 保育技術検定受験に向けて I 期中間考查	健康の概念、ライフステージと健康管理 保育技術検定4級受験(種目:家庭看護)
	I 期末末	高齢化の現状と高齢者の特徴 保育技術検定受験に向けて	高齢者の生活・健康の課題、自立支援の考え方 高齢者介護の考え方 保育技術検定3級受験(種目:家庭看護)
後期	中 II 間期	介護・看護の実習と生活支援	バイタルサイン、食事介助、車椅子実習、ボディメカニクスを利用した介護実習、レクリエーション実習
	II 期末末	高齢者の自立生活支援 II 期末考查	高齢者の衣食住にわたる生活援助の実習 (地域との連携:普通救命救命講習会 一人暮らしの高齢者に手紙を届ける)
	年次末	高齢者福祉の法律と制度	高齢化の現状と課題、高齢者支援の法律と制度、高齢者支援と地域包括ケアシステム (地域との連携:認知症サポーター養成講座) その他の福祉について(肢体不自由、視聴覚障害など)

4 観点別評価

計146時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
高齢者の健康と生活、介護などについて関心をもち、実践的・体験的な活動を通して主体的に学習活動に取り組んでいる。	高齢者の健康と生活、介護などについて、現代の家庭的・体験的な生活を見つめて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	高齢者と適切に関わることができたり、自立生活を支援したりするために必要な技術を身に付けようとしている。	高齢者の健康と生活、介護などについて理解し、家族及び地域や社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身に付けようとしている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、各考查成績、提出物、授業態度などを総合して評価する。

学年	3学年	系列	総合ビジネス	教科・科目・単位数	商業・②ビジネス情報・4単位
使用教科書	ビジネス情報(東京法令出版)			副教材	情報処理検定試験模擬問題集1級 ビジネス情報編(実教出版)

1 科目の目標

ビジネスにおける情報の役割について学び、情報を積極的に活用できる表計算ソフトの操作、データの集約・分析能力、レポートの作成能力を身につける。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業/コンピュータ実習

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

教科書、問題集をじっくり読んで、意味のわからない語句などに線を引いておく。
自宅にコンピュータがあれば実習しながら復習する。

② 授業における学習方法

板書を写すことはもちろん、解説をしっかりと聞いて疑問点を解決したり、予習での意味のわからない語句などを理解し覚えていくようにする。

③ 家庭学習のポイント等

予習・復習の仕方におなじ

(3) 担当者からのアドバイス

休まないこと。
毎回の授業をよく聞いて、その授業時間内で理解するように努めること。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間	1 オフィス業務と情報通信ネットワーク 業務の情報化の意義や必要性、LANやインターネット・イントラネットの概要、ネットワークの構成、データの共有に対する安全性の確保の知識を取得する。
	I 期末	2 表計算ソフトウェアの活用 表計算ソフトウェア「Excel」を活用し、情報を有効に役立てるため分析・整理し、活用する方法を習得する。
	II 期中間	3 データベースソフトウェアの活用 データベースソフトウェア「Access」を活用し、データを効率的に活用するための方法を習得する。
後期	II 期末	4 ソフトウェアを活用したシステム開発 Excel VBA マクロの処理を取得する。
	年 次末	実習とまとめ 今まで学習してきた内容を基に作表や分析をおこなう。

4 観点別評価

計 148時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報を適切に管理・分析し、活用する技術を積極的に身につけようとする。 コンピュータを活用して業務を合理化、自動化するなど、エンドユーザコンピューティングを推進する創造的な能力を身につける。	ビジネス情報を活用するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用し、情報を活用、加工する技術工夫を行うとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断をしている。	表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを用いた情報の整理加工、情報通信ネットワークを活用した情報の収集・発信などの基礎的な技能を身につけ、活用している。	ビジネスにおける情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するための知識を身につけている。 情報機器の導入と管理に関する知識やデータの保護とセキュリティの管理に関する内容を身につけている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、①定期考查 ②提出物 ③小テスト ④授業に対する姿勢など総合的に判断し評価する。

学年	3学年	系列	総合ビジネス	教科・科目・単位数	商業・③原価計算・3単位
使用教科書	実教出版「原価計算」			副教材	最新段階式簿記問題集1級原価計算 簿記実務検定模擬問題集1級原価計算

1 科目の目標

製造業における原価計算および工業簿記に関する基本的な知識と技術を習得し、原価について理解する。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習では教科書を読んでおくと授業での理解が深まる。毎時、授業内の問題を復習する必要がある。

② 授業における学習方法

教科書の内容をもとに問題に取り組む

③ 家庭学習のポイント等

授業で学習した問題に再度取り組むこと。

(3) 担当者からのアドバイス

原価計算の学習においては、2年次に学習した「簿記」の知識が必要である。「簿記」の内容をしっかりと復習し、理解しておいてほしい。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 第1編 原価計算の基礎 第2編 原価の費目別計算	原価と原価計算、原価計算のあらまし、工業簿記材料費の計算と記帳
	I 期末 第2編 原価の費目別計算 第3編 原価の部門別計算と製品別計算	労務費の計算と記帳 経費の計算と記帳 個別原価計算
	II 期中間 第3編 原価の部門別計算と製品別計算	部門別個別原価計算 総合原価計算
後期	II 期末 第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第4編 製品の完成・販売と決算	工程別総合原価計算 製品の完成と販売、決算と本社工場間の取引
	年次末 第5編 標準原価計算の基礎 第6編 直接原価計算の基礎	標準原価計算 直接原価計算

4 観点別評価

計 111時間 (48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
製造業の製造活動における取引を帳簿に記録・計算・整理する技術に関心を持ち、原価計算の一連の手続きについての学習に自ら進んで取り組んでいる。	製造業における取引を原価計算特有のルールから思考し、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、その成果を的確に表現している。	原価計算に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、製造業における取引を合理的、能率的に記録・計算・整理し、適切に処理する能力を身につけている。	製造業における取引を帳簿に記録・計算・整理する基礎的・基本的な知識を身につけ、原価計算の一連の手続きを理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查、提出物、授業に対する意欲などを総合的に判断し、評価する。

学年	3学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	商業・③ソフトウェア活用講座・3単位
使用教科書	30時間でマスターoffice2013(実教出版) 30時間でマスターホームページビルダー Ver11/12/13(実教出版)			副教材	なし

1 科目の目標

ワープロソフト(Word)・表計算ソフト(Excel)・プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の活用及びWebページ作成(ホームページビルダー)やネットワーク利用の心構えを理解する。
ハードウェア・ソフトウェアを利用し、自己表現力を養う。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習よりも復習をしっかりと行うこと。実習がほとんどなので、昼休みや空き時間を有効に活用すること。

② 授業における学習方法

テキスト中心に実習を行う。1時間あたりの進みが早いので、説明をしっかりと聞いて作業すること。

③ 家庭学習のポイント等

特になし

(3) 担当者からのアドバイス

1時間1時間を大切にすること。実習中心の授業なので、真剣に取り組むこと。
日々の授業をしっかりと理解できれば十分対応できる内容になっている。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 (1)ワープロソフト(Word)の活用1	タイピングの習熟およびWordの応用
	I 期期末 (1)ワープロソフト(Word)の活用2	Wordの応用および作表を含むビジネス文書の作成
	II 期中間 (2)プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の活用	プレゼンテーションの基本
後期	II 期期末 (3)プレゼンテーション実習	プレゼンテーションソフトを活用し発表することで、表現力を身につけさせる。
	年 次末 (4)Webページ作成 その他のソフトウェアの活用	表の作成など表現力の高いページ作成を行う。 配信・ネチケットおよび安全対策に関する学習を行う。

4 観点別評価

計 110 時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・ソフトウェアに関心を持ち、アプリケーションを適切に活用したり、ソフトウェアについて必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。	・ソフトウェアに関する基本的・基礎的な知識と技術を活用して、目的に応じた適切な判断ができ、創意工夫した表現をしている。	・ソフトウェアの利用やプレゼンテーションソフトの活用、Webページの作成方法などを身につけ、これらを活用した情報発信している。	・コンピュータのソフトウェアを用いた情報を効果的に伝えるための基礎的・基本的な知識を身につけ、理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、①課題制作、②授業に対する意欲・態度、③出席状況により評価する。

学年	3学年	系列	総合ビジネス	教科・科目・単位数	商業・④経済活動と法・3単位
使用教科書	経済活動と法（実教出版）			副教材	

1 科目の目標

経済社会における法の意義や役割について理解し、経済事象を法的に考え、判断する能力と態度を育成する。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習は不要。

② 授業における学習方法

事例から自分で法律判断を行うように心掛ける。

③ 家庭学習のポイント等

教科書のアドバイスをもとに、法律用語を理解すること。

(3) 担当者からのアドバイス

法的な思考を身につけるためには、自分で六法全書(商業法規便覧)を開くことが大切です。

3 学習計画

考查		単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間	・経済社会と法	・社会生活を営む上で関連の深い法規の基礎的・基本的な知識を学習する。 ・具体的な経済事象を通じて法的に思考し、判断する能力を身につける。
	I 期末末	・権利・義務と財産権	
後期	II 期中間	・財産権と契約そしてその保護	・具体的な経済事象を通じて法的に思考し、判断する能力を身につける。 ・企業活動に関する法についての基礎的な知識を身につけ、これまでの国際ビジネス系列での学習内容についての理解を深める。
	II 期末末	・企業活動に関する法	
	年 次末	・社会生活に関する法	・社会生活を営む上で必要な消費者、労働及び家族に関する基本的な法的知識を学習する。

4 観点別評価

計 110 時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・経済生活やわれわれの市民生活が安定的に営まれることは、法の存在による「法化社会」であるからである。従って、法の知識、法的思考が生活上必須のことであることに関心を持ち、意欲的に学習している。	・ある事象の解釈について、また条文についてなどの生成過程や立法の趣旨を論理的に思考、判断し、解釈している。	・新聞記事などを通してそれらのことが「法化社会」でどのように扱われ、条文と関連できるか具体的にとらえている。	・知識の裏づけをもって、経済活動や市民生活のあるところ法あり、と実感し理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查、授業への取り組み状況、提出物などを総合的に判断し、評価する。

学年	3学年	系列	総合ビジネス	教科・科目・単位数	商業・⑤広告と販売促進・3単位
使用教科書	実教出版 広告と販売促進			副教材	

1 科目の目標

広告や販売促進などに関する知識と技術を習得させ、企業と消費者間のコミュニケーション活動の意義や役割について理解させるとともに、販売に関連する活動を主体的、創造的に行う能力と態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

とくに予習・復習は必要ないが、身近な広告や販売活動に興味をもつこと。

② 授業における学習方法

教科書の内容から、広告や販売活動について考えさせ、実習・調査等を活用するなかで、適切な販売促進などのあり方について考えさせる。

③ 家庭学習のポイント等

教科書に出てくる専門用語を理解すること。

(3) 担当者からのアドバイス

内容は専門的であるが、ビジネスの基礎知識としてこの科目を学習することで、社会における一般常識を理解することができるので興味を持って学習して欲しい。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 第1章 販売促進	・販売促進の目的や販売促進の方法および販売に関わるビジネスの計算を理解させる。
	I 期末 第5章 販売員活動	・販売員活動の概要や方法を理解させ、販売員に必要な接客の心構えと敬語等のマナーを習得させる
	II 期中間 第2章 広告	・広告の概要や広告計画の手順と内容について理解させ、広告デザインの実習を通して、技術を習得させる。
後期	II 期末 第3章 広報 第4章 店舗の立地と設計	・広報の概要や具体的な活動を理解し、効果的な広報を考えさせる。 ・店舗の立地や設計、商品陳列について理解させ、店舗やディスプレイを分析させる。
	年次末 第6章 時代に応じた販売促進	・販売促進の規制を理解させ、時代に応じた販売促進の課題について考えさせる。

4 観点別評価

計 111時間 (48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
広告や販売促進に対して関心を持ち、販売活動に必要な心構えや態度を身につけている。	広告や販売促進についての具体的な方法や手段を考え、表現している。	広告の手順や販売促進の方法について理解し、広告制作や広報・店舗設計の技能を習得している。	広告や販売促進に関する基本的な知識を身に付け、広報や店舗設計についての内容を理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查・提出物・授業への取り組み等を総合的に判断し、評価する。

学年	3学年	系列	人文自然科学系列	教科・科目・単位数	商業・⑥情報処理・2単位
使用教科書	最新情報処理(実教出版)			副教材	なし

1 科目の目標

ビジネスにおける情報の役割について学び、情報を積極的に活用できる表計算ソフトの操作、データの集約・分析能力、レポートの作成能力を身につける。

2 学習について

(1) 授業形態	一斉授業/コンピュータ実習
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法</p> <p>教科書を読み意味のわからない語句や疑問点を整理しておく。 自宅にコンピュータがあれば教科書を参考に実践する。</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>コンピュータ実習が多いため話をよく聞き実習をおこなう。わからない点はそのままにせず質問するなどしてその時間中に理解するように努める。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <p>予習・復習の仕方に同じ。</p>
(3) 担当者からのアドバイス	1時間ごとに新しい用語や技術を学ぶため休まないこと。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 第4章 ビジネス文書の作成	文書の表現および文書作成ソフトウェアの活用を取り扱い、基本となる情報を基に、ビジネス文書を作成するための基礎的な知識と技術を習得させる。
	I 期末 第1章 情報の活用と情報モラル 第2章 情報通信ネットワークとセキュリティ管理	情報を適切に活用する能力や身につけるべき情報モラルについて学ぶ。 情報通信ネットワークの概要とインターネットの利用方法と効果について学ぶ。
	II 期中間 第3章 ビジネス情報の処理と分析	表計算ソフトウェアの特徴を理解し、基本操作を学ぶ。 ビジネスに関する情報の処理と分析を行うための基礎的な知識と技術を習得させる。
後期	II 期末 第5章 プレゼンテーション	プレゼンテーション活動の目的や基礎について学ぶ。 プレゼンテーションソフトを活用し、その技法について学ぶ。

4 観点別評価

計 74時間 (48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ビジネス情報の収集、整理・加工、伝達に情報技術を活用するための知識・技術を積極的に身につけようとする。	情報をビジネスに活用するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用したり、情報を活用しやすい形に加工する工夫を行うとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断をしている。	ワープロソフトウェアや表計算ソフトウェアを用いた情報の整理や加工、情報通信ネットワークを活用した情報の収集・発信などの基礎的な技能を身につけ、ビジネス情報を活用している。	・ビジネスにおける情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するための知識を身につけている。ビジネスの基礎知識ならびにコンピュータのハードウェア、ソフトウェアやアプリケーションソフトウェアの活用に関する基礎的な知識を身につけている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査・提出物・授業への取り組み等を総合的に判断し、評価する。

学年	3学年	系列	総合ビジネス	教科・科目・単位数	商業・⑦⑧財務会計Ⅰ・4単位
使用教科書	高校財務会計Ⅰ(実教出版)			副教材	最新段階式簿記問題集1級会計簿記実務検定模擬問題集1級会計(実教出版)

1 科目の目標

会計における基本的な考え方や処理法を習得する。
 会計情報を活用する能力を育成する。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

事前に教科書を読んでおくことと授業内容が理解しやすい。練習問題を利用し復習をする必要がある。

② 授業における学習方法

教科書の内容をもとに問題に取り組む。

③ 家庭学習のポイント等

予習・復習をしっかりとこなす。

(3) 担当者からのアドバイス

2年次簿記の知識が必要なため、わからないところをしっかりと復習しておく。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 第1編 財務会計の基礎 第2編 貸借対照表	企業会計の目的・歴史を通じて会計の必要性を学習する。 資産の意味、分類、評価について理解し、具体的な例を用いてその処理法を学習する。
	I 期末 第2編 貸借対照表 第3編 損益計算書	報告式の貸借対照表の作成方法を学習する。 損益計算の意味と考え方について理解し、具体的な例を用いて分類や各項目の処理法を学習する。
	II 期中間 第3編 損益計算書 第4編 財務諸表の活用	報告式の損益計算書の作成方法を学習する。 情報開示の重要性を理解する。
後期	II 期末 第5編 連結財務諸表	連結財務諸表のあらましと作成方法を学習する。
	年次末 企業分析	財務諸表の分析について学習し発表する。

4 観点別評価

計 148 時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
財務会計に関心を持ち、その知識と技術の習得に意欲的に取り組み、ビジネスの諸活動を把握する実践的な態度を身につけている。	様々な処理法や記帳法、財務諸表の作成について、自らの思考を深め、知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。	財務会計に関する基礎的な知識を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握して的確に処理でき、その成果を適切に表現している。	財務会計に関する基礎的な知識を身につけ、企業会計の基本的な理論および財務諸表の作成方法について理解している。

5 評価方法

上記の観点をつまみ、①定期考査 ②提出物 ③授業に対する姿勢など総合的に判断し評価する。

学年	3学年	系列	総合ビジネス	教科・科目・単位数	商業・⑦⑧マーケティング・4単位
使用教科書	実教出版 マーケティング 新訂版			副教材	

1 科目の目標

マーケティングに関する知識と技術を習得させ、マーケティングの意義や役割について理解させるとともに、マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習は不要であるが、新聞等に目を通しておくこと。

② 授業における学習方法

教科書の資料からビジネス活動を推測すること。

③ 家庭学習のポイント等

マーケティングの重要用語を理解すること。

(3) 担当者からのアドバイス

内容は専門的ではあるが、とても身近で具体的な学習内容である。コンビニエンスストアやスーパーなどの販売活動と照らし合わせることで、授業に興味を持ち、より積極的に参加することができる。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 現代市場とマーケティング	1 現代市場の特徴 2 マーケティングの進展
	I 期末 市場調査 消費者行動	1 市場調査の意味 2 市場調査の手順 3 実態調査の方法 1 消費者行動と購買 2 購買意思決定過程 3 製品のライフサイクルと普及
	II 期中間 販売計画 製品計画 仕入計画と商品管理	1 販売計画と販売予測 2 販売計画の立案・実施・統制 1 製品計画の概要 2 製品ミックスと製品政策 1 仕入計画 2 商品管理
後期	II 期末 販売価格 販売経路 販売促進	1 販売価格の決定 2 価格戦略 1 販売経路の設定 2 販売経路の強化 1 販売促進の重要性 2 広告 3 販売員活動 4 ブランド 5 信用販売 6 その他の販売促進
	年次末	コンテスト応募 時事問題検討

4 観点別評価

計146時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
マーケティングについて関心を持ち、マーケティング活動を計画的、合理的に行うことを目指して取り組もうとするとともに、マーケティング活動を行う実践的な態度を身に付けている。	マーケティング活動を計画的、合理的に行うことを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	マーケティングに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、マーケティング活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、マーケティングの意義や役割について理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査・提出物・授業への取り組み等総合的に判断し評価する。

学年	3学年	系列	人文・自然	教科・科目・単位数	商業・⑧ビジネス基礎・2単位
使用教科書	ビジネス基礎(とうほう)			副教材	

1 科目の目標

ビジネスに関する基本的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともにビジネス諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態	一斉授業
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法</p> <p>特になし。</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>授業用ノートをつくること。 調査研究により、身近な事例でビジネスの諸活動を確認する。 作品づくりなどの実習。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <p>新聞やニュースなどで世の中の情勢に関心を持つ。</p>
(3) 担当者からのアドバイス	<p>考查前には復習できるように授業用ノートを工夫してつくること。</p>

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 第1章 商業の学習ガイダンス	商業を学ぶ目的や生徒の学習の動機付けを図る。
	I 期末 第2章 ビジネスと売買取引	売買に関する仕入原価や利益の計算などビジネスで必要な知識を習得させる。
	II 期中間 第3章 経済と流通の基礎	生産要素の希少性、経済主体の役割、ビジネスの役割と発展、流通の意義と役割、卸売業や小売業等のビジネスの担い手の役割などを取り扱い、経済と流通に関する基礎的な知識を習得させる。
後期	II 期末 第4章 企業活動の基礎	企業の責任について取り扱い、企業活動に関する基礎的な知識を習得させる
	年次末 第5章 ビジネスとコミュニケーション	ビジネスに関する心構え、コミュニケーションの基礎的な方法を学習する。

4 観点別評価

計 74時間 (48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ビジネスについて関心を持ち、ビジネスへの諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、経済社会の一員として望ましい心構えや実践的な態度を身に付けている。	ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	ビジネスに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動への適切な対応を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済社会の一員として望ましい心構えについて理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查・提出物・授業への取り組み等を総合的に判断し評価する。

学年	3学年	系列	総合ビジネス	教科・科目・単位数	商業・⑨ビジネス経済・2単位
使用教科書	実教出版 ビジネス経済			副教材	

1 科目の目標

ビジネスに必要な経済に関する基本的な知識を習得させ、経済のしくみや概念について理解させるとともに、経済事象を主体的に考える能力と態度を育てる

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

新聞の経済欄を読む習慣を身に付けることが望ましい。

② 授業における学習方法

教科書の内容から、経済社会の動向に注目し、具体的な経済事象について経済理論と関連付けさせ、考えさせる。

③ 家庭学習のポイント等

教科書に出てくる専門用語を理解すること。

(3) 担当者からのアドバイス

内容は専門的であるが、新聞等で目にする用語が多く出てくる科目であり、学習するほど社会における一般常識を理解することができるので興味を持って学習して欲しい。

3 学習計画

考查	単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	I 期中間 第4章 経済成長と景気循環	・GDPや経済循環について説明し、理解させる。 ・経済成長の要因や景気変動、インフレーションについて、実際のデータを用い、説明し、理解させる。
	I 期末 第5章 経済政策	・国内でおこなわれている財政政策や金融政策について現在の政策を例に取りながら説明し、理解させる。
	II 期中間 第1章 市場と経済	・市場とビジネスの成立や市場経済と計画経済について理解させる。
後期	II 期末 第2章 需要と供給	・需要と供給の概念と需要と供給の変化について、具体的な事例を提示し、理解させる。
	年次末 第3章 価格決定と市場の役割	・価格決定のしくみと市場の役割と課題について、経済事象の変化を例にとり、理解させる。

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
経済活動に対して関心を持ち、経済事象の変化を積極的に確認しようとする。	具体的な経済事象について経済理論と関連付けて考えさせ、身近な事例で適切に表現している。	経済事象や市場経済についての数値データなどを正しく読みとり、解釈している。	国内経済についての知識を習得し、経済事象などをマクロ的な観点から理解している。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査・提出物・授業への取り組み等を総合的に判断し評価する。